ライオン誌（毎月20日発行）第53巻第3号 2010年8月20日発行 第3種郵便物認可

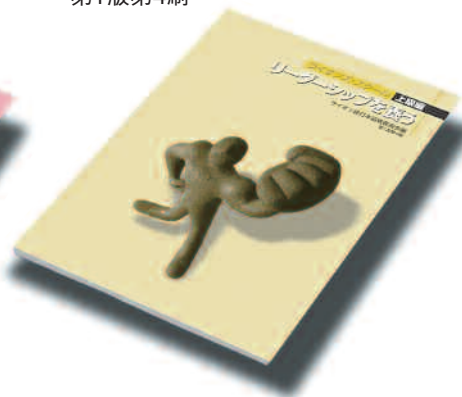
IN JAPAN Official Publication of Lions Clubs International

WWW.THELION-MAG.JP SEPTEMBER 2010 9

食と健康

ライオン誌日本語版出版物

ライオンズスクール・シリーズ

●初級編・ライオンズクラブ入門
第3版第1刷

入会したての新会員を対象に、これだけは知っておきたいライオンズクラブの基礎知識をまとめた。併せて「ライオンズ用語集」も収録。
A4判 64ページ 1部400円・送料実費

●中級編・クラブ運営の基礎知識
第3版第1刷

クラブ運営の基本を分かりやすく解説。知識を確認したり、セミナーや研修会などでグループ・ディスカッションに利用出来るワークシート付。
A4判 64ページ 1部400円・送料実費

●上級編・リーダーシップを養う
第1版第4刷

国際協会の総合的リーダシップ育成プログラムを基に編集。地区役員研修会などの副読本に、またクラブ会長や地区役員の指導力育成に最適。
A4判 64ページ 1部400円・送料実費

※ライオンズスクール・シリーズはいずれも50部以上ご注文の場合、送料無料（ただし、急ぎの場合は実費請求）。
●大口注文割引＝100〜499部350円／500部以上300円

※お申し込みは下記注文書をお使いの上、郵送またはファクスでお願いします。地区名・クラブ名・お名前・ご住所・お電話番号をお忘れなく。
※ライオン誌ウェブマガジンからオンラインでのご注文も承っています。下記のライオンズ文庫注文フォームからどうぞ。
https://www.thelion-mag.jp/modules/inquirysp/index.php?op=2
※請求書・振込用紙は、品物に同封します。（大口注文の場合は別便で送付）

〒104-0045 東京都中央区築地2-2-1 築地細田ビル7階 ライオン誌日本語版事務所（FAX：03-3546-2630）

キリトリ線

ライオン誌日本語版出版物　注文書

- ●ライオンズクラブ入門 …………　部
- ●クラブ運営の基礎知識 …………　部
- ●リーダーシップを養う …………　部
- ●ウィ・サーブ …………　部
- ●ライオニズムよ永遠に …………　部
- ●『ライオン』誌創刊号復刻版 …………　部

地区名 33 -	クラブ名	お名前（クラブで注文の場合は不要）
ご住所 〒 -		お電話番号

LION MAGAZINE IN JAPAN
September 2010, Vol.53 No.3

We Serve CONTENTS

2010年9月号　表紙
富山県南砺市
五箇山
写真／田中勝明
■詳細はウェブマガジンで
https://www.thelion-mag.jp

MESSAGE FROM THE PRESIDENT

ライオンズとして奉仕の最前線に

数年前、私は眼鏡配布使節団に参加しました。対象となった高齢者の中には、よく見えない状態で長年を過ごしてきた人もいました。視力が改善された時の彼らの喜びを想像してみてください。孫の写真をじっと見つめていたある老婦人の姿は、生涯忘れることが出来ないでしょう。彼女のほおを止めどなく流れる涙に、私は言葉を失いました。自分が誰かの役に立てた時ほど喜びを感じる瞬間はありません。その老婦人は視力を取り戻しましたが、同時に私の目も開かれました。奉仕の価値とライオンズの重要性を真に理解することが出来たのです。

この10月には「奉仕の誓い」キャンペーンに参加することで、どうか奉仕への決意を新たにしてください。ライオンズは確かに無私の奉仕を実証しています。しかし、クラブと会員はそれぞれの奉仕を次のレベルへと引き上げなければなりません。私たちは多くを成し遂げていますが、まだ努力の余地が残されています。ライオンズの一員であれば、奉仕の幅と深さを更に広げる力を持っているからです。

「奉仕の誓い」は、本年度のグローバル奉仕実施キャンペーンを補うものです。1年の特定の期間に青少年、視力、飢餓、環境に関する奉仕を提供するよう、私はライオンズに呼び掛けています。奉仕の規模が拡大するほど、その質も向上していくはずです。

ライオンズの存在意義が奉仕にあることを思い出してください。会員の中には友情に魅力を感じている人もいます。仲間が与えてくれる喜びを軽視するわけではありませんが、奉仕がもたらす充実感こそ、ライオンズがライオンズたる所以です。人々の生活を改善しようとしないなら、ダンスや旅行のグループと変わりません。しかし私たちはライオンズなのであり、その証しは奉仕することにあるのです。

人は自らの運命を決定し、自分自身を作り上げていくものです。従って10月には、クラブ活動への取り組みを高めようと一人ひとりが意識的に決断してください。オンラインの「奉仕の誓い」誓約書を利用すれば、この新たな決意を形に出来ます（www.lionsclubs.orgで「奉仕の誓い」を検索してください）。誓約書を提出すれば積極的に取り組もうとする意欲が更に高まり、結果的に地域社会の誰かの生活が改善されます。皆さんは自分が役に立てたことを知って微笑み、あるいは涙さえ浮かべることになるでしょう。

クラブもまた、奉仕の拡大に向けて奉仕のレベル、地域社会のニーズ、踏むべき手順を評価することにより、「奉仕の誓い」キャンペーンに参加すべきです。特にクラブの看板奉仕事業を重視し、それを持たない場合には新たに打ち立ててください。クラブはそのために広く知られ、高く評価される事業を持つべきです。クラブの知名度を高め、会員の誇りをかき立て、活性化の契機となる看板事業は、ライオンズのイメージと可能性を飛躍的に高めます。

従って、来る10月には奉仕への決意を明確に表明することで、可能な限り優れた会員、優れたクラブになろうと努めてください。それはライオンズとしてあるべき姿を追求することです。

2010-11年度国際会長
シド・L・スクラッグスⅢ世

THEME

食と健康

健康で丈夫な身体を作るのは、日々の食事から。身体によいと言われている食材の産地を訪ね、生産、収穫の現場を取材すると共に、産地の人々がその食材をどのように食しているのかをリポートする。和の鉄人として知られる道場六三郎氏の対談も収録。

健康食材のふるさとを訪ねる1

雑穀／岩手県花巻市

雑穀5千年の歴史が新たなステージを迎えた

取材／柳瀬祐子　写真／田中勝明

キビを間引く畑山一二さん。抜いた株はそのまま横たえ畑の肥やしにする

理想郷産大地の恵み

「雑穀」。ヒエやアワ、キビ、黒米、豆、ソバ……。米と小麦以外の穀物の総称である。このちょっとぞんざいな呼び名にも見えるように、雑穀には米の代替食、はては鳥のエサというイメージもある。が、このところメキメキ需要が高まっているという。日本一の雑穀の産地、岩手県花巻市を訪ねた。

花巻は童話作家で、地元花巻農学校の教師でもあった宮沢賢治生誕の地。今、花巻は賢治が示した理想郷「イーハトーブ」の名を掲げ、雑穀生産に励む。全国生産量の6割を占める岩手県で、そのうち6割が花巻産だ。

雑穀の可能性を見いだし、生産拡大をリードしてきた㈱プロ農夢花巻の小原広和総括部長は言う。

「雑穀生産のきっかけは平成6年、食物アレルギーがあるお子さんのお母さんから、アワやヒエを入手出来ないか

㈱プロ農夢花巻で製造している雑穀。他にも、シリアルやフリーズドライの雑穀雑炊、レンジで温めるだけの雑穀ごはんなど、手軽に食べられる商品もいろいろ

タカキビ畑で土を掘り起こし畝に盛る川村孝信さん。水はけをよくすることと雑草駆除が目的。大型農機が入れない中山間地の畑では手作業で世話をする

と相談を受けたことです。改めて調べてみると、現代はアレルギーや糖尿病などの成人病に苦しむ人がたくさんいる。一方、雑穀を主食にしていた明治・大正生まれのお年寄りは健康で長寿を誇っていました」

実は日本人は米よりも前、５千年以上昔から雑穀を食べ続けてきた。それが昭和30年代、白米が主食になり、食文化も急激に変わった。が、最近になって、健康にいい雑穀の価値が再認識されるようになってきた。

寒冷な気候でも収穫が見込める雑穀は、米の転作作物としても有望だった。作付面積の拡張と品種改良、自治体による支援策を設けるなど、生産拡大の努力を続けた。販売に特化したＪＡの子会社・プロ農夢花巻が誕生、「イーハトーブひみこの会」がレシピの研究とＰＲで消費拡大を狙う。

人気商品「十二穀米」の雑穀はすべて県内産。現在それが出来るのは岩手県だけだ。健康を支える雑穀だから農薬を控え、安心・安全・信頼を第一に置く。意外にも日本で消費されている雑穀の９割が輸入品で、これらには食用・飼料用の区別がないという。購入の際には意識されたい。

雑穀食のすすめ

雑穀の優れている点は何か。

まず栄養面。穀物ごとにそれぞれ特徴はあるが、総じて栄養価が高い。カルシウムやマグネシウムなどのミネラル、ビタミンB群、ポリフェノール等が豊富で、繊維質も多い。造血、コレステロールの低下、解毒作用といった効果が期待される。

次に味。「体には良くてもおいしくない」という先入観がある方、雑穀を混ぜて炊いたご飯に天然塩を振ってよく噛みしめてみてほしい。豊かな滋味が感じられるはずだ。

そして食材としての汎用性。素朴な味わいは肉、魚、野菜、何にでも合い、洋食、和食、中華、デザートにも利用出来る。更に、とろみやプチプチなど、雑穀それぞれに特徴ある食感にも通じれば、雑穀料理のレパートリーはどんどん広がるだろう。

■ズッキーニとタカキビのジュエルケース、押麦と焼きネギのスープ、ヒエとモチキビのガレット、ヒエとモチキビのビスコッティーニ

市内のマクロビオティック・レストランSobe's cafe。地場産の無農薬野菜と玄米のメニューを提供している。雑穀コース希望の際は電話でご相談を。TEL：0198-24-7107 URL：http://cafe.sobe.jp/

健康食材のふるさとを訪ねる2

枝豆／千葉県野田市
豆と野菜、二つの顔を持つスグレもの

取材／鈴木秀晃　写真／田中勝明　協力／千葉県・野田ライオンズクラブ

関東平野中央にある醤油の街

野田市は関東平野のほぼ中央、東は利根川を挟んで茨城県、西は江戸川を挟んで埼玉県と接している。この二大河川の流域では昔から大豆作りが盛んで、大豆を原料とした醤油の醸造業も生まれた。醤油業界最大手のキッコーマンや、白醤油部門最大手のキノエネ醤油も野田が創業地であり、国内約3分の1のシェアを占める日本最大の醤油生産地となっている。

また、近年は隠れた枝豆産地としても注目を集めている。野田で枝豆栽培が盛んになったのは25年ほど前から。以来、年々生産量が増え、２００２年には出荷量日本一となった。が、なぜか知名度は低い。

というのも、その品質の良さゆえ、なかなか一般市場に出回らない幻の枝豆だからだ。東京の大田市場に出荷されたものも、セリにかかる前に高級料

市内には枝豆産地にちなんで、枝豆をデザインした「まめバス」というコミュニティーバスが走っている

野田にある菓子舗「喜久屋」は市内の提携農家から仕入れた枝豆を一つひとつ手作業でむいて仕込んだ枝豆あんを使って「枝萬米(羊羹)」「野田便り(焼菓子)」「枝豆(生菓子)」という3種類の和菓子を作っている

亭などが入札してしまう。仮に消費者の目に触れるとしても、それは一流デパートの食品売り場であったりする。

が、ここ数年、せっかく日本一になったのだから、枝豆を使って町おこしをしようとの気運が高まってきた。枝豆豆腐や枝豆かまぼこ、枝豆リキュールなど、さまざまな加工品も生まれ、「ゆめあぐり野田」という農産物直売所での販売も始まった。現在、野田の枝豆生産者300人の1割に当たる約30人が、直売所に枝豆を出している。

夏だ！ ビールだ！ 枝豆だ！

ところで、意外と知られていないようだが、大豆と枝豆は同じものである。枝豆とは未成熟の大豆のことで、収穫しないでおけば大豆へと成長する。

で、大豆を枝豆状態で食べるのは、日本特有の食べ方らしい。しかも歴史は古く、奈良・平安時代には現在の形で食していたという。江戸時代には、夏になると路上に枝豆売りの姿が見られたそうで、当時は枝についたままの状態で茹でた豆を売っていたことから「枝豆」の名前が生まれた。

そして今や、夏と言えばビールに枝豆が定番中の定番。「とりあえずビールに枝豆」。もうこれをオーダーしなくちゃ日本人じゃない！ ぐらいの勢いで日本の夏を席捲している感がある。

枝豆は大豆の未熟豆というのは先に紹介した通りだが、栄養的には豆と野菜、両方の特徴を持ったスグレものなのである。枝豆には大豆由来のタンパク質や疲労回復を促すビタミンB1、更にはカルシウム、植物繊維、鉄分などが豊富に含まれている。また大豆には含まれていないビタミンA、ビタミンCも含み、取りすぎた水分や塩分を追い出すカリウムも豊富と、いいことずくめの食材だ。

このうち大豆のタンパク質に含まれるメチオニンは、ビタミンB1やビタミンCと共に、アルコールの分解を助け、肝臓の負担を軽くしてくれる。つまり悪酔いや二日酔いの防止に効果があるわけで、ビールに枝豆というのは、栄養学的にも相性抜群なのである。

■枝豆サラダ

枝豆は食品分類上は豆類ではなく野菜に入る。そして子どもの好きな野菜の第1位がこの枝豆である。本文で触れたように、枝豆は栄養学的にも非常にレベルが高いので、他の夏野菜と共にサラダに入れたら、子どもたちも喜ぶはず。手軽に栄養補給が出来て、夏バテ防止にも役立つので、旬の時期にしっかり食べたい。

健康食材のふるさとを訪ねる3

シジミ／島根県松江市

いま大注目のシジミ・パワー

取材／鈴木秀晃　写真／田中勝明　協力／島根県・松江ライオンズクラブ

シジミの時代が来た！

このところ、シジミ・パワーが注目を集めている。「シジミ70個分のちから」をうたうインスタントみそ汁が出たかと思えば、あるビール・メーカーは休肝日用にと「シジミ400個分」のビール風味飲料を開発。更には「シジミ2千個分の……」なんて商品まで現れ、世を挙げてのシジミ・ブームが到来している。

いったい、シジミのどこがそんなにすごいのか。それを探るべく、全国の漁獲量の約45％を占めるシジミの聖地、島根県の宍道湖へと飛んだ。

宍道湖は島根県の東北部、県庁所在地である松江市と出雲市、斐川町にまたがる湖だ。淡水と海水が入り交じる汽水湖のため魚種が豊富で、その代表格であるスズキ、モロゲエビ（ヨシエビ）、ウナギ、アマサギ（ワカサギ）、シジミ、コイ、シラウオは宍道湖七珍と呼ばれている。中でもシジミは湖内でとれる魚介の9割を占め、宍道湖の代名詞ともなっている。

宍道湖でシジミ漁に携わっているのは約300人。新規参入はなく、その漁業者数は変わることがない。しかも鋤簾（じょれん）と呼ばれる漁具を使ってシジミを

とることが許されているのは一家に1人のみ。今日は体調が悪いから、親に代わって子が漁に出るということも出来ず、子どもが漁に出られるのは、親が完全に引退してからになる。

鍵はオルニチンにあり！

宍道湖のシジミ漁は月、火、木、金の週4日、午前中の3時間（手掻きは4時間）以内の操業と決まっている。また1日の捕獲量を制限したり、鋤簾の目を粗くし小さなシジミはとらないようにして、資源を大切に守りながら漁に従事している。

が、ここ数年、大型のシジミが激減し、関係者を悩ませている。原因は2006年に山陰地方を襲った集中豪雨だ。宍道湖漁業協同組合の井原幸夫さんによると、「宍道湖のシジミはヤマトシジミといって、薄い塩分濃度（海水の10分の1〜3分の1）を好みます。宍道湖はヤマトシジミにとって絶妙な塩分濃度だったんですが、集中豪雨によってそれが薄まってしまい、多くのシジミが死滅しました」という。それでも、肉質の良さなど、シジミ自体の質は変わることはなく、宍道湖のシジミは相変わらずの人気を博している。

シジミの選別作業

同じヤマトシジミだが、砂地にいるものは茶色がかって小さく、泥地に生息するものは黒く大きい

さて、話を「いったい、シジミのどこがそんなにすごいのか」に戻そう。

シジミは昔から身体にいいと言われているが、その鍵は1932年にイギリスの学者らが発見した「オルニチンサイクル（尿素回路）」にある。これは、有毒物質のアンモニアを尿素に分解することで、そこで重要な役割を果たすのがアミノ酸の一種オルニチンである。つまり、体内のオルニチンを増やせば、オルニチンサイクルが活性化し、肝機能改善や疲労回復効果が期待出来るというわけだ。で、このオルニチンを多く含む食材が、シジミなのである。

ヤマトシジミの旬は夏。特に土用にかけて、シジミは産卵を控えて身が太り、一層うまみが増す。「土用シジミは腹ぐすり」と言われるが、昔から経験則として、夏のシジミはうまく身体にいいことを知っていたのだろう。

■シジミ汁、シジミのパエリア

シジミと言えばすまし汁が定番。松江のシジミ汁には、大ぶりの貝がたくさん入り、その間に汁があるような案配。県外の人から見たら非常にせいたくなお椀だが、松江ではこれが当たり前。またNHK連続テレビ小説「だんだん」でカレーやコロッケが登場して以降、松江でも写真のパエリアのようなシジミを使った創作料理が誕生している。

健康食材のふるさとを訪ねる4

もずく／沖縄県うるま市

美ら海と太陽に育まれて

取材／河村智子　写真／田中勝明

「神の島」の恵み

沖縄のおじい、おばあの元気の秘密は、伝統的な食事にあり。長寿食として注目を集める沖縄料理の特徴の一つが、海藻類をたくさん食べることだ。沖縄の海藻といえばもずく。というわけで、沖縄産もずくの約5割を水揚げする、うるま市勝連地区を訪ねた。ちなみに、もずく産地は本州各地にもあるが、沖縄で主に穫れるのは「フトモズク」とも呼ばれる「オキナワモズク」で、本州の「ホソモズク」とは種類が違う。

勝連は沖縄本島の東側に細く突き出した勝連半島にある。その半島の沖に浮かび、今は海中道路で結ばれた浜比嘉島の周辺が、もずくの養殖場になっている。もずくの生育に適しているのは、水が奇麗で、太陽の光が降り注ぐ浅瀬だ。浜比嘉島は琉球開祖の神、アマミキヨとシネリキヨが住んだと伝えられる島。周囲は珊瑚礁に守られた水深5～10メートルの遠浅の海で、昔から天然もずくが豊富にとれた。養殖は、毎年秋にその天然もずくから採った種で行われる。養殖用の網に種付けして発芽させ、それを海底に張って育てるのだが、畑と同様に、雑草などを除去する

養殖場のある浜比嘉島の海。この日はあいにく雲が多かったが、島の高台からは白砂の海底にたくさんの養殖網が並ぶ様子がよく見える。勝連では漁師の9割、200人がもずく養殖に携わる。神の島の豊かな海の恵みのおかげで、後継者不足とは無縁だという

手入れが欠かせない。陸の畑と違うのは、海中に潜って作業するところだ。

収穫期は4月から6月にかけて。収穫を終えて港に戻った船の甲板にあったのは、長いホース。このホースを持って海中に潜り、ポンプでもずくを吸い取って収穫するのだ。水揚げしたもずくは洗浄、選別されて、加工場で塩蔵される。

低カロリーでミネラル豊富

納豆やオクラ、ナガイモなど、ネバネバ、ヌルヌルとした食材は、身体に良さそうなものばかり。海藻類のヌメリにも、フコダインという栄養素がある。免疫力を高める効果や、血糖値やコレステロールを抑制したり、腸の働きをよくする効果があると注目されていて、海藻の中でも、特にもずくに多く含まれている。その他にも、カルシウムや鉄分などのミネラルや、ビタミン、食物繊維が豊富。しかも、100グラム当たり約6キロの低カロリーとくれば、生活習慣病が気になる人にはうれしい食材だ。

身体によいもずくをおいしく食べたいと、勝連漁業協同組合の玉城謙栄さんに「おいしいもずく」について聞いてみた。玉城さんによると、もずくの食感は収穫時期によって異なり、早い時期に収穫したものがヌメリが多く、シャキっと歯触りがよい。しかし、通常は塩蔵加工して出荷されるので、一般の家庭に出回ることはまずない。勝連漁協では、もずくの自然なおいしさを味わってほしいと、とりたてを殺菌海水で洗い、そのまま冷凍する手法を開発。「早摘みもずく」として食卓に届けている。

■もずくの天ぷら、味噌汁、酢の物

勝連漁業に「普段、皆さんが食べている料理を……」とリクエストして作って頂いたのが、この3品。定番は酢の物だが、もずくは麺つゆとの相性もよいので、そうめんと一緒に食べてもおいしい。天ぷらはもっちりとした食感。塩抜きしたもずくに水気を抑えるために片栗粉をまぶし、ニンジンなどの野菜と合わせ、衣をつけて揚げる。

「食と健康」対談

料理人・道場六三郎×渡辺豊隆

長年にわたり食の分野で活躍されてきたお二人に、「食と健康」というテーマで語り合って頂いた。自由な発想の料理で和食に新風を吹き込んでこられたライオン道場と、この春に97歳を迎えられてなおお壮健なライオン渡辺。半世紀余り前から交流のある二人の「鉄人」による対談は、食の話題だけに止まらず、長寿の極意にまで及んだ。

7月12日 銀座・ろくさん亭にて　取材／河村智子　撮影／田中勝明

■渡辺豊隆
1913（大正2）年4月15日、千葉県生まれ。日本パーティー・サービス㈱代表取締役。長年にわたり宴会やパーティーを手掛け、現在も内閣総理大臣官邸の調理室を担当。05年黄綬褒章受章。67年東京紀尾井町ライオンズクラブ入会。92年度330・A地区ガバナー。

長寿の元は日本食にあり

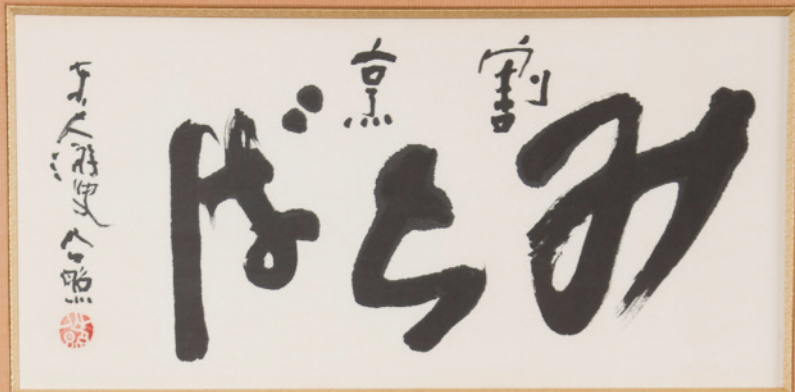
道場　渡辺さんと初めて出会ったのは、昭和32年の1月でした。支配人をされていた赤坂の料亭常盤屋に僕が入って、その年の11月には仲人をして頂きましたね。あれからもう53年になります。

渡辺　総理官邸や宮中の御用を預かっていましたから、道場さんにもよく出張してもらいましたね。道場さんの料理は、従来の日本料理の枠を飛び越えて新しい材料をどんどん取り入れた斬新なものでした。異端だと言われることもあったけれども、それがとても受けた。

道場　「道場くんの料理は日本料理じゃない」とも言われましたが、大切なのは食材を生かすこと。よく調味料で食材を殺してしまうんです。少し控え目ぐらいな方がいい。

渡辺　今日は「健康と食」をテーマにお話ししようということです。自分ではまだ若い気分ですが、最近は人様にお会いすると「長寿の秘訣は?」とか、「食べ物は?」「睡眠時間は?」など質問を受けるようになりました。

道場　渡辺さんは18歳年上ですが、僕はあと18年生きられるかと考えるとちょっと自信ないですね。

渡辺　自分ではこの年齢まで生きるとは思わなかったし、まだ実感したことはないですね。日本は世界一の長寿国で、厚生労働省の調査によると100歳以上の方は3万4952人いらっしゃるそうです。ではなぜ長寿かというと、やはり食べ物からきているのだということで、米がいいのだとか、野菜がいい、魚がいいのだとか言われています。しかし考えてみると、健康と食事ということについて一般の人が強い関心を持つようになったのは、最近のことです。私たちが昔からそうとは知らぬ間に食べてきた日本食が、実は

■道場六三郎
1931（昭和6）年1月3日、石川県生まれ。銀座「ろくさん亭」主人。93年からテレビ番組「料理の鉄人」に「和の鉄人」として出演して人気を博す。05年卓越技能賞（現代の名工）受賞。07年旭日小綬章受章。74年東京霞ケ関ライオンズクラブ入会。

長寿の元だったというわけで、これはありがたいことだと思います。

道場　諸外国の人たちから見ると日本人の体型はスリムだし、長寿だということで、海外でも日本食はヘルシーだと注目されています。僕が育った戦後間もない頃は食べるものがなくて、お肉が食べたかったですが。今になってみれば、牛蒡や人参、大根を食べてきた日本の食生活が良かったのでしょう。

大切なのはバランス

渡辺　私は生まれが海のそばでしたから、新鮮なイワシとかサバ、貝類を食べることが多かったです。

道場　海草類もすごくいいんですよ。ひじきの鉄分は牛レバーの5倍ぐらいもあるそうです。

渡辺　ひじきは昔から日常よく食べていますよ。ですが、私は健康のためにと意識してあれを食べよう、これを食べようなんてあまり考えたことはないですね。

道場　よく、サプリメントが身体によいと宣伝していますが、何か飲んでいらっしゃいますか？

渡辺　いや、ぜんぜん飲んでません。

「食事のバランス、腹八分目ということはさっきお話しした通りですが、僕はストレスというのがない」

道場　僕も飲まないです。薬も風邪薬ぐらいしか飲んだことがない。

渡辺　そういえば、ハチミツは飲んでいますよ。牛乳にバナナやヨーグルト、それにすりゴマ、きな粉を混ぜたものに、ハチミツを入れて毎朝飲んでいます。

道場　僕はこのところ、納豆にゴマを混ぜたのをよく食べています。箸で取って食べやすくなるし、ご飯にもお酒にも合うし。それにしても、近頃はこれが身体にいいと聞くとみんな一斉に飛びつきますね。でも大切なのはバランスだと思います。僕は偏らずに何でも食べるようにしています。若い時は野菜が嫌いでね、肉なら２００グラムぐらいのステーキを平気で食べていましたが、この頃は野菜をよく食べています。和食の献立でも、以前は魚６～７割に野菜が３～４割ぐらいでしたが、今は野菜が増えていますね。野菜料理を出すと、店のお客さんにも非常に喜ばれますよ。

ほどほど、控え目がいい

渡辺　よく酒は百薬の長と言いますが、日本画の大家、横山大観は90歳で亡くなるまで毎日2升余り飲んでいたと言われます。自宅に酒樽を置いて生涯飲み続けて、酒代を換算すると銀行の二つぐらいは出来たと豪語されていたそうです。長寿の人には案外酒飲みが多いんですね。私は若い頃はよく飲みました。2次会、3次会、多い時は4次会とうろついて、帰りは午前様と言われるのが常でしたが、60歳を過ぎた頃からは酒の量は極端に減りました。あなたもよく飲んだね。男前だからよくもてたし。

道場　いや確かによく飲みました。でも一度飲み過ぎて体調を崩してからは減りましたよ。やはり怖いものがあると、気を付けるようになりますね。お酒でも何でも、ほどほどというのがいいんじゃないかな。

渡辺　私は仕事柄のせいか、よく「おいしいものをたくさん召し上がっているのでしょう」と言われますが、この頃は料理の試食も控えているし、2次会は失礼することにしています。お客様とご一緒する時以外は昼食はとらず、朝と夜の1日2食です。お肉でも何でも、いろいろなものを頂きますが、もともとが小食ですね。外食の機会が多いですから、もったないと思いますが量の多い時は残します。ボーイさんには「私は小食だから残すけれど、まずくて残すのじゃないからね」と断っておいてね。

道場　よく腹八分目と言いますが、七分目でもいいぐらいです。一度にた

「小事にこだわらず、心許せる友と語らい、一日いち日を楽しくやっていけばいい」

くさんのものを食べる、いわゆる大食いというのは身体によくないでしょうね。

渡辺　私はご飯はお茶碗に軽く半分ぐらい。その代わり、よく噛むんです。時間は掛かりますが。妻が私の倍ぐらい食べ終えても、私はまだ食べている。特に心掛けたわけでもなくて、自然にそうなっていたんです。

道場　よく噛むことは、脳にも良いと言いますからね。

最上の長寿法は……

渡辺　「食と健康」というテーマで思い出しましたが、吉田茂元総理にこんなエピソードがあります。日米友好100年祭に日本政府代表として訪米した記念パーティーの席で、82歳にしては色艶がよく足腰もしっかりしていると、外国人記者団から「不老長寿の秘薬でもお飲みですか」との質問が出た。それに「いや別に。強いて言えば、年中人を食っています」と答えて、一同大笑いしたということです。吉田総理は美食家として知られていますが、私共の料理をお気に召して頂いて、大磯の別邸にも出張したものです。その時に頂戴した二幅の掛け軸は私の宝としていますよ。

道場　外交官として活躍されただけあって、ジョークもお上手だったんですね。今度、使わせてもらおうかな(笑)。僕も料理人としてはもう長老の方ですから、何か健康のために気を付けていることはないかと聞かれるんです。食事のバランス、腹八分目ということはさっきお話しした通りですが、僕はストレスというのがない。

例えば、大きな仕事が控えている時に、そのことばかり考えて不安がる人がいますが、そういうことが身体にはよくないんじゃないでしょうか。僕は「その時はその時だ」という覚悟が出来ているせいか、心の重荷というのがないですね。いくらもっと長く生きたいと思っても、寿命がきたら人は死ぬんですから。

渡辺　天命ですね。天から授かった命ですから。昔の人、特に中国には、長寿の秘訣だといってあらゆる食材を買い漁り、長命を図ったという記録がありますが、それほど長生きはしていません。

道場　確かにそうですね。それよりも、いかに天命を全うするか、ということでしょう。

渡辺　毎日が臨終のような気持ちでいればいいんです。小事にこだわらず、心許せる友と語らい、一日いち日を楽しくやっていけばいい。それが最上の長寿法だと思います。

国際協会 国際理事会構成

国際第2副会長	国際第1副会長	前国際会長	国際会長
ウェイン・A・マデン（アメリカ）	ウィンクン・タム（香港）	エバハルト・J・ヴィルフス（ドイツ）	シド・L・スクラッグスⅢ世（アメリカ）

執行委員会
シド・L・スクラッグスⅢ世◎
エバハルト・J・ヴィルフス
ウィンクン・タム
ウェイン・A・マデン
ヘインズ・タウンゼンド

会則及び付則委員会
ヘインズ・タウンゼンド◎
K・P・A・ハルーン○
ヤネス・ボーリッチ
ユージーン・M・スピーズ
エド・マコーミック

大会委員会
ジョセフ・L・ロブレスキー◎
不老安正○
マイケル・S・ソウ
サンド・リー

地区及びクラブ・サービス委員会
ジョセフ・ヤング◎
ゲアリー・ドラジオ○
ジェームズ・キャバラロ
エディソン・カーノフ
ナレシュ・アガワル

財務及び本部運営委員会
アン・スマーシュ◎
ビョンドク・キム○
ダグラス・X・アレクザンダー
ナレンドラ・バアンダリ
エディ・ヴィジャナルコ
レイシー・M・プレスネル Jr.

指導力委員会
リチャード・ソーヤー◎
H・O・B・ラワル○
パール・K・クリステンセン
ロバート・G・スミス
グッドラン・イングバドター
ジュンヨル・チョイ＊

長期計画委員会
シド・L・スクラッグスⅢ◎
エバハルト・J・ヴィルフス
ウィンクン・タム
ウェイン・A・マデン
ゲアリー・ドラジオ
ジョセフ・L・ロブレスキー
エド・マコーミック

会員増強委員会
ホルスト・P・ケルヒカタラ◎
ドメニコ・メシナ
ヤマンドゥ・P・アコスタ
タールン・チャン
クリシュナ・レディ
ジェームズ・E・アービン＊

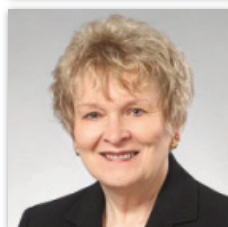
PR委員会
ロナルド・S・ジョンソン◎
カルロス・A・イバニエズ・T○
ダニエル・A・オーライリー
ソニヤ・プーリー
ブラッド・ログズドン

奉仕事業委員会
ジェリー・スミス◎
ルイス・ドミンゲス○
ゲアリー・A・アンダーソン
山浦晟暉

監査委員会
ルイス・ドミンゲス◎
ウィンクン・タム
ケン・バード
ビョンドク・キム
K・P・A・ハルーン

LCIF執行委員会
エバハルト・J・ヴィルフス◎
シド・L・スクラッグスⅢ世＊
ウィンクン・タム
ウェイン・A・マデン
不老安正○
アン・スマーシュ
タールン・チャン
山浦晟暉
ジェームズ・E・アービン
ジュンヨル・チョイ

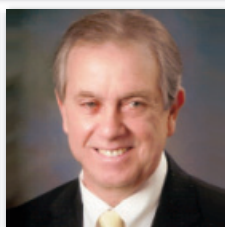
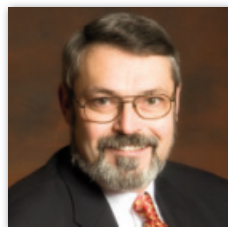
◎＝委員長、○＝副委員長、＊＝投票権のない構成員

2010-11年度 ライオンズクラブ

2年目理事（2009～11年）

アン・スマーシュ（アメリカ）

リチャード・ソーヤー（アメリカ）

ダニエル・A・オーライリー（アメリカ）

ロナルド・S・ジョンソン（アメリカ）

ゲアリー・ドラジオ（アメリカ）

ルイス・ドミンゲス（スペイン）

ドメニコ・メシナ（イタリア）

カルロス・A・イバニエズ・T（パナマ）

ジョセフ・ヤング（カナダ）

ヘインズ・タウンゼンド（アメリカ）

ジェリー・スミス（アメリカ）

ホルスト・P・ケルヒカタラ（オーストラリア）

H・O・B・ラワル（ナイジェリア）

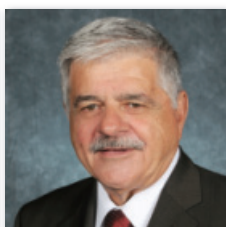
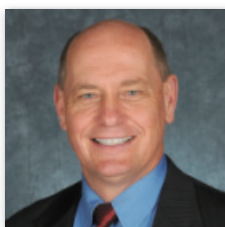
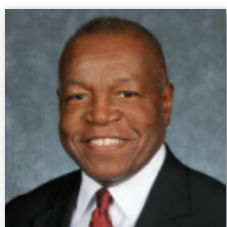
K・P・A・ハルーン（インド）

マイケル・S・ソウ（フィリピン）

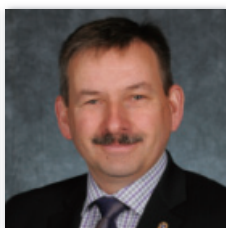
ビョンドク・キム(韓国)

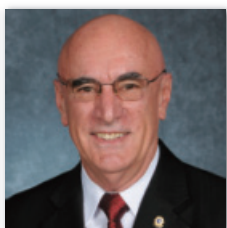
不老安正（日本）

1年目理事（2010～12年）

ソニヤ・プーリー（アメリカ）

ジェームズ・キャバラロ（アメリカ）

ゲアリー・A・アンダーソン（アメリカ）

ダグラス・X・アレクザンダー（アメリカ）

ヤマンドゥ・P・アコスタ（アメリカ）

グッドラン・イングバドター（アイスランド）

パール・K・クリステンセン（デンマーク）

ヤネス・ボーリッチ（スロベニア）

エディソン・カーノフ（ブラジル）

ユージーン・M・スピーズ（アメリカ）

ロバート・G・スミス（アメリカ）

エディ・ヴィジャナルコ（インドネシア）

クリシュナ・レディ（インド）

ナレンドラ・バアンダリ（インド）

山浦晟暉（日本）

サンド・リー（韓国）

タールン・チャン(台湾)

国際理事だより

■国際理事
山浦晟暉
（東京新宿）

変化への挑戦

6月28日、第93回シドニー国際大会で、東洋・東南アジア地域代表の一人として国際理事に就任させて頂きました。今日までの全国のメンバー各位のご厚情に衷心より感謝申し上げますと共に、その重責に改めて身の引き締まる思いであります。

理事会にて私は、LCIF執行委員会と奉仕事業委員会に所属することになりました。これから2年間、先輩各理事のご指導の下、国際協会の基本理念を理解・尊重し、日本・OSEAL・世界ライオンズの発展に最善の努力を惜しまぬ決意です。

今大会の登録者は約1万3千人、日本から約2千人近い代議員、会員、家族が参加しました。パレードはブラスバンドが「お江戸日本橋」を演奏、日の丸を先頭に候補者そして華麗な留袖姿の女性メンバー軍団、その後に法被姿に纏を振りかざす男性メンバーの大集団、まさに江戸大絵巻を見るような大パレードでした。世界160カ国が参加したこのパレードで、日本は第1部ユニフォームで第2位に入選しました。

シドニー大会参加の皆様は、その他ジャパン・レセプション、ガバナーを囲む会、開会式などに出席され、代議員投票では総数3276票の88％に当たる2878票を不肖山浦に投票して頂き、閉会式会場を埋め尽くした多くの日本メンバー各位から祝福の拍手を賜りました。

8月12、13日、新人国際理事オリエンテーションに出席し、国際理事としての心構えや協会方針等を学びます。私は、「変化への挑戦」をコンセプトとしておりますので、新しい時代に今最も必要な「変革」はどうあるべきかについて、各国の理事と積極的に意見を交わし、日本を大いに主張するだけでなく、学ぶべきものは的確に日本に還元して、国際協会と日本メンバーとの「懸け橋」となりたいと考えています。

今期のシド・L・スクラッグス国際会長のテーマは「希望の光」です。

「世界には206カ国130万人の灯台のように道を照らし、輝かしい奉仕を続ける会員が存在する。その一人ひとりが『希望の光』である」と話され、改めて「ウィ・サーブ」奉仕の重要性を考え、皆で推進していこうと強く訴えられました。

6年前、私のガバナー・テーマは「一灯照隅、万灯照国」でした。一本の灯では片隅しか照らせない、百本、千本、万本の灯となれば社会全体を、国中を、そして世界中を照らすことが出来るの意です。一人でも、クラブでもゾーン、リジョンでも出来ないことを成し得るのがLCIFであり、これを通じて地球の裏側の人々にも幸せと生きる喜びをもたらす人類愛に燃えた奉仕活動が出来るのが、我々ライオンズです。21世紀は情報化・グローバル化の時代です。我々は地域貢献だけでなく国際貢献も実現出来、世界一と評価されるライオンズに所属しLのバッジを胸にすることに誇りと喜びを持とうではありませんか。

任期中は担当委員会活動以外にも、日本ライオンズから早期に世界のリーダーを輩出、青少年健全育成（薬物乱用防止）、PR事業、会員増強等に対し、日本ライオンズとしての主張・考え方を強く訴えて参ります。メンバー各位の更なるご支援、ご協力をお願いし就任のごあいさつと致します。

ライオンズニュースカセット

NEWS CASSETTE

活気あふれる高雄市の一景：写真提供／高雄フォーラム組織委員会

台湾・高雄で 第49回OSEALフォーラム

今年の東洋・東南アジア（OSEAL）フォーラムは11月18～21日、台湾南部に位置する高雄で開催される。高雄はアジア有数の国際貿易港を抱えて台湾経済を支える台湾第2の都市だ。7月28日に開催された第1回ガバナー協議会議長連絡会議には、フォーラム組織委員会からマグネット・リン委員長ら5人が訪れ、日本の協力を要請した。リン委員長は「OSEALフォーラムはエリア内で半数近い会員数を有する日本の協力なしには成功しない。日本と台湾は地理的にも文化的にも近く、ライオンズ同士の交流も活発で、日本のクラブと姉妹提携を結んでいる台湾のクラブは約600に上る。今回のフォーラムを通じてOSEALの団結を一層強め、奉仕の力を高めていきたい」と話した。

高雄フォーラム主要日程（予定）www.49oseal.org

時間	内容
11月18日(木)	
15:30～17:00	第2回ステアリング委員会会議
17:00～18:00	GMT会議
21:30～22:30	コーカス･ミーティング
11月19日(金)	
8:30～ 9:30	協議会議長と地区ガバナーの会議
10:00～11:00	ライオンズクエスト･セッション
10:00～11:00	国際会長と地区ガバナーの会議
11:00～13:00	美食カーニバル（高雄アリーナ）
13:30～16:00	開会式（高雄アリーナ）
11月20日(土)	
8:30～ 9:30	第2回協議会議長と地区ガバナーの会議
10:00～11:00	国際第1副会長と第1副地区ガバナーの懇談会
11:00～12:00	国際第2副会長と第2副地区ガバナーの懇談会
11:00～12:00	LCIF複合地区及び地区コーディネーター会議
11:00～12:00	セミナー
13:30～16:30	セミナー（英語、中国語、日本語、 韓国語）
19:30～21:30	国際会長歓迎晩餐会
11月21日(日)	
8:30～ 9:30	第3回協議会議長と地区ガバナーの会議
10:00～12:00	閉会式

本部ホテル：高雄金典酒店

奉仕の光を輝かす
グローバル奉仕実施キャンペーン

シド・スクラッグス国際会長は、ライオンズの奉仕の光をより明るく輝かせる「グローバル奉仕実施キャンペーン」に参加して、テーマに沿ったアクティビティを企画するよう呼び掛けている。このキャンペーンは、特定の期間ごとに四つのテーマを掲げて特定のニーズに焦点を絞っている。

8月：青少年　レオや若い人たちをライオンズクラブの奉仕活動に巻き込む

10月：視力　視力保護に焦点を絞ったライオンズの活動を広く世界に発信する「世界視力デー」は、今年は10月7、8日、スクラッグス国際会長夫妻が参加して大阪市で行われる。この時期は各クラブが視力にスポットライトを当てる絶好の時期となる。眼鏡収集キャンペーンや視力障害者支援の活動を計画して地域の人々にも参加してもらったり、失明者を手助けするため住宅の修繕を行うなど、有益な活動は多岐にわたる

12／1月：飢餓　世界的な経済不況により、年末年始にかけて食卓に食べ物を用意出来ない家庭が増えている。恒常的に飢餓状態にある人々は推定1億人以上で、その15％は先進国で暮らしている。栄養不良は心と身体の発育を妨げ、子どもたちの将来を危機に陥らせる。飢餓救援組織に協力したり、食料品を集めて配給するなど、困難な状況にある人々を支援する事業を計画しよう

4月：環境　公園の美化に取り組んだり、植樹を行う。パソコンや携帯電話のバッテリーを収集してリサイクルする

2009・10年度、世界の会員数は約2万人増

国際本部集計によると、年度末となる2010年6月末の会員数は133万8803人で、年間1万9873人（1・5％）の純増となった。インド1国でこれとほぼ同数の1万9659人（11・2％）が増えており、その功績は大きい。東洋・東南アジア地域では1059人の純増。会則地域内で会員の4割を占める日本が3200人を減らす中、中国の2232人増、台湾の1123人増などに助けられた形だ。日本の35地区中純増したのは、330・C（埼玉県）、332・B（岩手県）、そして333・B（栃木県）の3地区。332・B地区は08・09年度に続き2年連続の純増となった。

世界の女性会員は約30万人、家族会員は7万7500人

国際本部が2010年6月末の女性会員と家族会員の集計を発表した。

09年度中に6万6914人の女性会員が入会し、年度末29万6966人（22・2％）で2・4ポイント増加した。世界の4万6168クラブのうち女性会員のみで構成されるクラブは1429クラブ（3・1％）ある。日本では、ライオン誌集計によると同月末の女性会員は1万587人（10・0％）で世界の割合の半分以下に止まっている。一方、3288クラブ中、女性クラブは98クラブ（3・0％）と世界と同率で、日本では女性会員が女性のみのクラブに多く所属する傾向が見える。

09年度、世界では3万7312人の新会員が家族会員（世帯主以外）として入会、うち2万555人が女性、1万6757人が男性だった。6月末の世界の家族会員は7万7489人。同月末の日本の家族会員は2897人で8割以上を女性が占める。年間では579人純増した。

合併クラブの新たな出発を後押しする「合併証明書」

2009・10年度中に、日本で新たに結成されたクラブは20クラブ、解散したクラブは69クラブあったが、解散クラブのうち9クラブは合併によるものだった。合併によって新たなスタートを切ったクラブは、この2年間で22クラブを数える。

二つ以上のクラブが合併するには、合併を考慮しているクラブが合同会議を開いて存続するクラブの名称や役員など必要事項を決定し、各クラブが合併を支持する旨の決議を採択して、地区キャビネットの承認を受けて国際本部に合併を申請する。合併したクラブには、要請に応じて国際本部から「合併証明書」（写真見本）が発行される。合併に際して、存続するクラブ以外は解散してチャーター（認証状

The International Association of Lions Clubs

Certificate Of Merger

The International Association of Lions Clubs has granted, and hereby certifies that

The Lions Club Of

the surviving club resulting from a merger of the Lions club(s) of

Members as of the Date of Merger

（合併時メンバー記名欄）

を返還することになるが、その苦渋の選択を乗り越え、一つのクラブとして迎えた新たな出発を証明するものだ。証明書には合併前の各クラブ名と共に、「この合併は、対等の合併であり、合併の結果としてここに集う全会員は過去にこだわらず、新しい気持ちで、ウィ・サーブの精神に則り、平等の権利と義務を持つ明るい活力あるクラブを目指します（一部抜粋／本部訳）」という文言が記され、下部にはチャーターと同様に合併時に在籍した会員名が記載される。

LCIFステアリング委員会が発足

新設されたLCIFステアリング委員会のメンバー13人が発表された。委員は各会則地域から1人ずつに加え、会員数の上位2カ国、会員1人当たり献金額の上位2カ国からそれぞれ1人ずつ、アフリカから1人が任命され、前LCIF理事長がこれに加わる。委員会メンバーは以下の通り。

クレメント・クジアク元国際会長（委員長／会則地域Ⅰアメリカ及びその周辺）、ジャック・イサマン元国際理事（Ⅱカナダ）、アウグスティン・ソリバ元国際会長（Ⅲメキシコ・中南米・カリブ海諸島）、トン・ソーターズ元国際理事（Ⅳヨーロッパ）、テーサップ・リー元国際会長（副委員長／Ⅴ東洋・東南アジア）、ローイット・C・メータ元国際会長（Ⅵインド・南アジア・アフリカ・中東）、ロナルド・アーサー・ラクストン元国際理事（Ⅶ大洋州及びその周辺）、ラリー・ジョンソン元国際理事（会員数第1位／アメリカ）、A・P・シン元国際理事（会員数第2位／インド）、栢森新治元国際理事（献金額第1位／日本）、チャンリー・リー元国際理事（献金額第2位／台湾）、S・P・アミン元国際理事（アフリカ）、アルバート・ブランデル元国際会長（前LCIF理事長）。

同委員会はLCIFの強化を図るために設置されたもので、LCIF執行委員会に対して適切な助言、推薦を行う。

カンボジアに学校を チャリティー・ディナーショー

6月6日、千葉市のホテルグリーンタワー千葉において、千葉県ライオンズクラブ カンボジア支援プロジェクト（CLCP／林護会長）主催のチャリティー・ディナーショーが開催された。

CLCPは1996年2月に設立され、この14年間でカンボジア国内に小、中学校合わせて16校を建

LIONS ON LOCATION 世界で奉仕するライオンズ

イギリス

「リサイクル」で街に活気

インググランド南部の歴史ある海辺の街ワーシング。昨年11月、人口10万の街の中心部で最大の空き店舗となった絨毯ショールームの閉店は、その中心街に何度目かの打撃を与えた。ワーシング ライオンズクラブはこのスペースを「リサイクル」して、祭日の活気を取り戻すことにした。36の慈善団体や地域グループを招き、広いスペースを共同で利用したのだ。クリスマス前の6週間、各団体は慈善活動を行ったり、活動資金を調達するために中古品や不要品を販売。アーティストや工芸家は作品を展示したりワークショップを開いたりした。ライオンズはスタッフとして会場に待機し、無料でケーキやコーヒーを提供した。

期間中に会場を訪れた人は1万2千人以上。空き店舗が繁華街に暗い影を落とす代わりに、活動の拠点となって地域に活気を取り戻した。この事業は、不況やオンライン・ショップ、大型店のあおりを受けた商店街の活性化に取り組む「空き店舗ネットワーク」と協力して実施した。元ショールームはその後も何度か催しに使われたが、まだ空いたままだ。しかしジョン・サイレス会長は今回の活動に成果を感じている。「空き店舗リサイクルは格好のPRともなり、市民のライオンズへの理解を高めることが出来ました」

設してきた。資金面では333・C地区（千葉県）内の有志クラブ、会員の支援を受けている他、クラブの周年事業やLCIF交付金の活用によって学校建設を進めてきたが、昨今の厳しい経済情勢の影響で、資金調達が困難な状況となっている。そこで企画したのが今回のディナーショーで、出演は次代を担う若手演奏家のサクソフォン・カルテット「スピリタス」。集まった観客170人が、クラシックからポピュラー、ジャズまで幅広いジャンルの演奏を楽しんだ。収益はカンボジアでの学校建設のために活用される。

『ライオン』誌 ベスト・エッセー賞発表

ライオン誌日本語版委員会では、「獅子吼」欄に掲載された年間の投稿原稿の中から特に優秀なものを選考し、毎年9月のライオン誌月間に「ベスト・エッセー賞」として発表している。2009・10年度の選考は7月9日に開催された前年度第12回ライオン誌日本語版委員会で行われ、以下の受賞者が決定した。

鷹栖律子（栃木県・那須ハーモニーシニアライオンズクラブ）09年7月号「我が家のK君」

小野早苗（栃木県・小山城南ライオンズクラブ）10年1月号「私とイモリとライオンズ　父が残してくれたもの」

石橋美枝（北海道・小樽グリーンライオンズクラブ）10年6月号「ライオンズクラブとのかかわり方」

会議録

第12回ライオン誌日本語版委員会（7月9日／ライオン誌日本語版事務所／出席者：秋山詔樹、瀧澤嘉門、佐々木公穂、林静誠、砂田繁雄、大島康男、小田邦雄、塩倉安伸各委員、荘英隆、小柴登司両ITアドバイザー）

①7月号（10万8300部発行）出来②8月号記事内容の確認③9月号以降台割（案）④2009・10年度ライオン誌日本語版委員会年次報告（案）⑤ライオン誌日本語版事務所運営⑥2010・11年度ライオン誌日本語版事務所予算（案）⑦オンライン報告システム⑧その他

クラブ名称変更／解散／合併

■クラブ名称変更

青森県・大畑→むつ大畑
青森県・川内→むつ川内
青森県・脇野沢→むつ脇野沢
東京都・東大和→東京東大和
広島県・福山駅家→福山あい

■解散クラブ（7月）

埼玉県・熊谷セイフティ／栃木県・鬼怒川川治温泉／群馬県・高崎新生／三重県・四日市スカイ／大阪府・高槻やまぶき（合併）／徳島県・日和佐／徳島北／広島県・神石三和

■クラブ合併（合併前のクラブ）

大阪府・高槻中央（高槻中央／高槻やまぶき）

訃報

■元国際役員

ライオン宮崎幸康（長崎県・島原）

7月23日死去、95歳。89年度337複合地区ガバナー協議会議長、337・C地区ガバナー。

■献眼

6月＝ライオン越智昭光（北海道・余市）

【編集部より】

8月号「オークブルック通信⑥」の記事に、太平洋アジア課の情報サイトのURLの記載が漏れていました。左記の通りです。

http://www.e-clubhouse.org/sites/PacificAsianJP/

330～333複合地区（東日本）担当
GMTリーダー
後藤　忍

2008年度に発足して以来、継続的に会員増強に取り組む「グローバル会員増強チーム（GMT）」。複合地区、地区とのチームワークで、会員増強の目標達成をサポートするGMTリーダー2人に、交替でチームの動向や担当エリアの会員増強の成功事例などを伝えてもらう。

国際大会が開催されたオーストラリアは、年間を通じて温暖で木々にはコアラが遊んでいるのどかなイメージを持っていましたが、大会期間中はちょうど真冬の時期に当たり、日中の気温は15度ぐらいで夜は5度まで下がるという寒さに震え上がった1週間でした。

シドニーはタウンホールを中心に高層ビルが建ち並ぶ近代的な都市ですが、公園や街路樹が奇麗に整備され200年前の建国時に造られた古い建物を残した英国風の香りがする落ち着いた街です。有名なオペラハウスから西へ2キロほどのダーリングハーバーという入り江にコンベンション・センターがあり、ここが本会議や各種セミナー、投票等が行われた場所です。

6月29日にこのコンベンション・センターで会則地域ごとのGMT会議が開かれ、東洋・東南アジア（OSEAL）地域でも、エリア内各国のGMTリーダーと地区ガバナー・エレクト（DGE）が集いました。参加メンバーは、今年から加わった中国とグアムを含めた8カ国のDGEと、会則地域のGMTリーダーのウィンクン・タム国際第1副会長、テーサップ・リー元国際会長、後藤隆一元国際理事と、GMTエリア・リーダー8人の約100人でした。

会議は英語で行われ、それを日本語、中国語、韓国語、タイ語に訳しながら進行したため時間がかかり、多少聞きづらいところがあったと思います。特にDGEの皆さんは、集中してDGEセミナーを受講された後で相当にお疲れの様子でしたが、会員増強を最重要方針と受け止めておられ、熱心な会となりました。

各リーダーの中でもタム副会長は、「地区ガバナーの皆さんの努力により、2010年度末にOSEAL地域の会員数30万人を目指そう」と力強く訴えておられました。OSEALの会員数は6月末集計で約25万8千人ですが、この目標が達成されれば、27万人のヨーロッパを抜いて2番目に大きな会則地域となります。

OSEALの会員増強目標

国・地域	目標
日本	4,700人
韓国	7,000人
台湾	2,110人
タイ	545人
中国	4,000人
マレーシア	680人
フィリピン	450人
グアム	56人
合計	19,541人

会議の終わりに、各国DGEに今期の会員増強目標数を発表してもらったところ、日本の35地区は4700人増、OSEAL全体では1万9541人の増加目標となりました。今期の地区ガバナーの会員増強に対する熱意と心意気の表れと思われ、プラスに転じる可能性を感じ取ることが出来て、期待しているところです。

・2010年6月30日までに承認される交付金を提供出来るよう、人道奉仕援助交付金予算積立金から190万ドルを配分。
・人道奉仕援助交付金の支出方針を改訂。
・32件（総額1,155,201ドル）の一般援助交付金、国際援助交付金、四大交付金を承認。
・合計8件の交付金申請の審議を継続。
・糖尿病予防及び抑制プログラムを四大交付金優先事業として扱う期間を2011年6月30日までと更新。
・汎米眼科財団理事会に対する代表を任命。
・証券の寄贈を円滑に行えるようにするため、スコットレード証券に設けられている財団の口座の署名権限保持者を更新。
・LCIFステアリング委員会設置を実行するため、LCIF定款、理事会方針書におけるLCIFの章、LCIF運営方針書を改訂。
・財団の取引銀行変更により、理事会方針書のLCIFの章に記載される銀行取引及び投資にかかわる個所を更新。

リーダーシップ委員会

・シアトルにおける2011年地区ガバナー・エレクト(DGE)セミナーより、セミナー期間を1日増やし、1泊の宿泊代及び1日の食事代を地区ガバナー・エレクト及び講師に対するDGEセミナー経費支払い分に追加。
・中国の15人のライオン指導者のために、5日間にわたる中国ライオンズ研修チームオリエンテーションを承認。

長期計画委員会

1. グローバル会員増強チーム（GMT）を複合地区及び地区のレベルに拡張し、現存の会員（M）、エクステンション（E）、維持（R）の委員長職を統合して一つのチームにすることにより、MERLチーム・プログラム及び本チームのメンバーとなっている4種の委員長職を段階的に廃止するための最終計画を承認。更にこの計画は、これまでの会員維持の機能を変え、「クラブ向上」にこれまで以上に幅広く注意を向けることにより、低い維持率の根本的原因に取り組むことをも目指すものである。またMERLにおける指導力育成にかかわる機能及び委員長職は、M、E、Rとは切り離され、グローバル指導力育成チーム（GLT）と呼ばれる独自の構造の一部となる。GLTは、拡張されたGMTと一体となって相互に依存しながら任務を遂行することになる。

今後、相互に依存し合う仕組みのGMTとGLTは、地域ごとに異なる成長の必要性に一層効果的に取り組んでいくと同時に、ライオンズの奉仕の使命達成に向けクラブの向上及び国際協会のあらゆるレベルでの更なる指導力育成に一層努力を注いでいく。2010-2011年度は、活動中のMERLチームが存在する地区及び複合地区にとっては、チームを維持しながら2011-2012年度までに新たなGMT及びGLTの構造へと移行する計画を策定する年となる。MERLチームが機能していないか、あるいはそのメンバーの任期が満了する地域には、2010-2011年度中の出来る限り早い時期にこの移行を行うことが奨励される。

会員増強委員会

・ブータン王国をライオンズクラブ国際協会の206番目のライオンズ加入国として承認。
・必要に応じてブータン市民社会登録申請を行うことを承認。
・会員増強委員会による考察及び承認の対象となるチャーター申請件数を変更。この件数は1会計年度につき1地区あたり、これまでの15件から10件へと引き締められた。

PR委員会

・海外へのライオン誌本部版とスペイン語版の郵送を3年契約によりPDS Flexible International Mailing社に委託することを承認。
・理事会方針書第20章におけるアワードの項を整理。
・国際理事表彰アワードに関する記載内容からメダルにかかわる文言を削除。

奉仕事業委員会

・2009-2010年度ベスト・レオ賞受賞者を選定。
・ライオンズクラブがレオクラブのスポンサーを取り止め、レオクラブ納入金の請求取り消しを希望する場合は、ライオンズクラブ国際協会青少年プログラム課にレオクラブ解散届を提出しなければならないとの規定を制定。
・レオクラブ解散に関する方針を変更。これにより、レオクラブをスポンサーすることを取り止める場合、スポンサーのライオンズクラブは多数決によってその決定を行わなければならない。加えて、地区ガバナーに対し、スポンサー・ライオンズクラブの役員は、レオクラブのスポンサー取り止めの意図を知らせる文書を、スポンサー・ライオンズクラブが投票を行う最低30日前までに提出しなければならない。
・ライオンズクラブがレオクラブ会員から合意を得ずにスポンサー取り止めを希望する場合には「レオクラブの存続を検討する際のガイドライン」に従わなければならないことを明確にするため、理事会方針書の文言を削除。

上記決議事項のいずれかに関する詳細は、国際協会公式ウェブサイト(www.lionsclubs.org)でご覧頂くか、国際本部(電話：630-571-5466)にお問い合わせください。

国際理事会の決議事項要約

オーストラリア・シドニー
2010年6月23日～6月27日

監査委員会

・インド・ムンバイにおける寄付処理を検討。
・グランドソーントン社と共に監査計画を確認。

会則及び付則委員会

1. B-9地区(メキシコ)における第2副地区ガバナー選挙に関する抗議を却下し、ライオンフェデリコ・コタ・ロドリゲスをB-9地区の2010-2011年度第2副地区ガバナーとして宣言。
2. 323-J地区(インド)における第2副地区ガバナー選挙に関する抗議を却下し、ライオンバーヴァ・H・コタリを323-J地区の2010-2011年度第2副地区ガバナーとして宣言。
3. 324-B3地区(インド)における第2副地区ガバナー選挙に関する抗議を却下し、ライオンV・ムルゲサンを324-B3地区の2010-2011年度第2副地区ガバナーとして宣言。
4. 理事会方針書に記載されているクラブ、地区、複合地区の各標準版会則及び付則をより明確なものとし、標準版会則及び付則、国際会則及び付則、理事会方針書の規定との間の整合性を図るため、これらの標準版会則及び付則を改訂及び整理。
5. 抗議申し立てに対する文書による返答提出及び機密保持に関する規定を加えるため、理事会方針書のクラブ、地区、複合地区の紛争処理手順を改正。
6. トルコにおいて財務代表はもはや必要がないことから、この役職に関する理事会方針書の記載事項を削除。

大会委員会

・資格証明手順への事務的改訂を承認。

地区及びクラブ･サービス委員会

・2010-2011年度の任期を務める地区ガバナーの選挙結果及び任命を承認。
・グルジア共和国及びベラルーシに存在するクラブの暫定ゾーン編成を承認。
3. 2010-2011年度に暫定ゾーン及びリジョン・チェアパーソンを務めるライオン指導者を任命。
4. 中国の浙江においてクラブ数が17、会員数が450人に到達し次第、この地域を386暫定地区とすることを承認し、執行役員にその暫定地区の2010-2011年度地区ガバナーを任命する権限を付与。
5. クラブ再建アワードの受賞条件を、再建されたクラブが12カ月間グッドスタンディングを保持しなければならないと変更。クラブが12カ月間グッドスタンディングでなければならないことから、半期国際会費を前納するとの条件は削除。
6. 国際協会では何年も前にライオネスの用品販売を中止しており、理事会方針書第15章に商標に関する方針が既に記載されていることから、ライオネスの商標及びクラブ用品にかかわる文言を削除。

財務及び本部運営委員会

・黒字となる2009-2010年度収支予想を承認。
・黒字となる2010-2011年度予算を承認。
・ノーザントラスト・カンパニーを従業員退職年金プランの受託者として承認。
・理事会会議にかかわる方針を変更。これにより理事会会議の予定は理事会が承認しなければならないと共に、10月／11月及び3月／4月の理事会会議の費用総額は200万ドルを超えてはならないと規定。
・スピーカー任務、理事会会議、または国際大会のために旅行する国際理事、元国際理事、理事会アポインティー、もしくは公認スピーカーに同伴者が伴う場合の方針を改訂。これにより、法律上の配偶者以外の成人同伴者が伴う場合は、年度開始時に国際会長の承認が必要となる。
・慣例を反映させるため、地区ガバナー予算に関する理事会方針を変更。方針は下記の通りである。

　予算
　地区ガバナーには、地区運営用に毎年予算が割り当てられる。年間予算は過去5年間で最大の3年間の平均に基づくものとなる。この予算算出の対象となるのは3月31日の時点における前地区ガバナーの最終承認予算と、その前に任期を務めた4人の地区ガバナーに対して支払われた実費である。予算増額の申請は、地区内における地区ガバナーの地理的位置、大幅なクラブ増加、あるいは地区再編成に関連してのみ検討される。

・理事会方針書のクラブ用品の章を整理・統合。
・特別な事情がある場合の元国際理事のスピーカー任務に対して、国際会長が追加に5千マイルの予算を承認出来るよう、理事会方針を変更。
・執行役員旅行及び経費払い戻しに関する方針への事務処理的な変更を承認。

LCIF

・LCIFの慈善寄付年金（CGA）の保管機関をノーザントラスト社に変更。
・2年任期のアフリカ代表を1人、LCIFステアリング委員会に追加。
・ボシュロム社小児白内障諮問委員会に対するLCIF代表を任命。

LCIF Update

LCIFファイル

新しいイメージで、更なる発展を

アリシア・ディマール

ライオンズクラブ国際財団（LCIF）の新しいイメージが、世界中のライオンズに好評だ。ブランドイメージを見直し、一新したロゴマークは、LCIFの使命や活動内容をより明確に表現している。ライオンズクラブの新しいロゴやメッセージと調和したデザインにするため、今回リニューアルされたLCIFロゴは1年以上の月日を掛けて検討された。ロゴを使ってLCIFのブランドイメージを強化することは、長期的なマーケティング戦略の一つであり、ブランドの視認性を高め、認知向上を図る上で重要な役割を果たす。

　とはいえ、過去から現在まで終始一貫性のあるデザインは、ブランドの価値を更に強めるものだ。そこでこれから2年を掛けて、LCIF全体で統一したイメージを演出出来るよう努めていく。具体的には、新たに作成される資料に関しては新しいデザインを採用するが、既存のバナーやレターヘッド、出版物などは随時新しいロゴに切り替えていく。

　LCIFが発展するためには、人道奉仕活動を行う代表的な組織として認められ、存続し続けなければならない。新しいイメージとメッセージは、ライオンズのメンバーはもちろん、それ以外の人々にもLCIFの活動が社会に与える影響を理解してもらうことが出来る。LCIFの存在をより多くの人に知ってもらえれば、人道的な活動が増え、世界中で支援を待つ国や地域を援助することが出来るのだ。

■新しいLCIFのメッセージ

LCIFは主に視力回復支援、青少年育成、災害救援、障害者支援といった人道奉仕活動のために、人材確保や資金調達を行っている。我々の存在がライオンズの地域貢献活動の元となり、その活動は世界各地に大きな成果をもたらしている。すべての献金が、使命を遂行するための糧となり、それが実を結ぶ時、我々の活動意欲は更に高まる。そして、思いやりと愛情を持って、世界中の人々の暮らしをより豊かにすることが出来る。我々は常に有能であり、資金を確実に管理する責任があるのだ。

■新しいLCIFのロゴ

■新しいLCIFのキャッチフレーズ

We care. We serve. We accomplish.

ENGAGED

ACTIVE IN SCHOOLS AND COMMUNITIES AROUND THE WORLD, OUR LIONS QUEST PROGRAM DEVELOPS HEALTHY, STRONG YOUTH INTO LEADERS FOR TODAY AND TOMORROW.

Lions Clubs International Foundation mobilizes resources and raises funds to deliver humanitarian programs around the world. 100% of our donations reach their intended goal, and each donation is important to fulfilling our mission.

DONATE NOW

Lions Clubs International FOUNDATION

魅力あるデザインと洗練されたメッセージで一新されたLCIFのポスター

SightFirst Update

視力ファースト拡張に向けたパートナーシップ

LCIFは共通の目的を持つ企業や団体とのパートナーシップを通して、資金の有効活用に努めている。ボシュロムやエシロールとのパートナーシップによって、我々は視力関連の奉仕活動を継続し、また拡大することが出来る。

LCIFは新たにボシュロム小児眼科研究所とも提携した。これにより我々は幼児期の視力検査を推進し、白内障の予防、及び治療に取り組む。ボシュロムはこの共同プログラムを発足させるため、第一弾として35万ドルを寄付してくれた。

「あまりにも多くの新生児が小児白内障にかかっており、彼らの未来には視力低下や失明が待ち受けているのです。これは受け入れがたい事実です」

ボシュロムのポール・サルトリ副社長は語る。

「研究、予防、治療に更に多くの資金と関心が集まることで、私たちは世界の子どもたちの人生を大きく変えることが出来るのです」

先進国における小児白内障の比率は10万人に1人～4人である。しかし、開発途上国の場合は、この比率が10倍に跳ね上がる。この事実を考慮し、白内障イニシアチブは、初年度に4万人の子どもたちが小児白内障を患っていると推測される中国を、主な援助対象としていく予定である。

また、LCIFはエシロール・インターナショナルと新たにパートナーシップを結び、屈折障害を矯正する総合的な活動を支援する。このパートナーシップによって、医療サービスが行き届いていない人々に対し高品質で低価格のプログラムを提供し、また他の分野においても共同で取り組めるよう、多角的かつ継続的なシステムを開発、拡大、強化することが可能となる。

世界保健機関（WHO）は、世界には1億5800万人以上の視覚障害者がおり、8000万人が屈折障害の未矯正により失明していると推測している。屈折障害は眼鏡やコンタクトレンズの使用、あるいは手術によって矯正することが出来る。

ボシュロム小児眼科研究所との新しいパートナーシップにより、小児白内障を予防、治療する

ライオンズとエシロール社は 著しい失明予防の必要性がある場所や未矯正の屈折障害に対する医療サービスが不足している地域で、施設の整備などを強化していく。行動計画は地元のライオンズと協議しながら決めていく。エシロールは低価格の備品の供給や専門知識を有するスタッフを現地に派遣し、そして今後1年間、アフリカの国々で初期のパイロット事業を実施することになっている。

「エシロール・インターナショナルは新たに、LCIFと長期にわたるパートナーシップを結ぶことになり、今後の展開に期待を寄せています。エシロールは人類の役に立つことを企業理念に掲げており、『失明と闘う』というLCIFの重要な使命を補完出来ることをうれしく思います」

エシロールのCEOであるヒューバート・サニエール氏は話す。

またエシロールは、ライオンズクラブ国際協会に手頃な価格で独自の良質なレンズを提供してくれることになっており、ライオンズはそれらを人道主義的な目的を果たすため、世界中で使用することが可能となる。

更にエシロールはライオンズ眼鏡リサイクルセンターに最新の方法で効果的にリサイクル出来るシステムを導入し、リサイクルの効率や継続性を改善するためのガイドラインの提供や技術支援、資金援助などを行い、眼鏡リサイクルセンターの支援にも乗り出す。

それ以外にも、エシロールはライオンズとの提携プログラムであるスペシャルオリンピックス・オープニングアイズ・プログラムに製品を現物支給するなど、ライオンズと長期にわたる関係を築いている。

日本の皆さんに海外のLCIF事業を視察して頂く恒例のスタディ・ツアーが来年1月に開催されます。これまでインド、カンボジア、タイ、フィリピン、ベトナム、マレーシアを訪問しましたが、今回の視察地はラオスのビエンチャンとルアンパバーンです。ツアーでは視力ファースト交付金で建設された眼科診療所や、日本のクラブが建てた学校を見学します。またルアンパバーンは旧王宮が置かれていた古都で、数多くの歴史的建造物が残り、世界遺産に登録されていますので、観光もお楽しみ頂けるはずです。更にはツアーに参加した全国のライオンズ会員と交流をする機会にもなります。このツアーはリピーターの方が多いことが特徴ですが、そうした点も参加動機となっているようです。多くの方のご参加をお待ちしております。

ライオンズクラブ国際財団

●ツアー費用

成田･中部発：222,000円(1人／2人1室利用料金／食事付)

※1人部屋利用追加料金30,000円／ラオスでの寄付2,000円

※関西･福岡発は、お問い合わせください。

※ビジネスクラス追加料金は、お問い合わせください。

●申し込み締め切り：2010年10月30日（土）

●ツアー企画

ライオンズクラブ国際財団（LCIF）

担当：田辺憲雄（資金開発課課長）

●ツアー取扱

協和海外旅行株式会社

〒113-0033東京都文京区本郷4-5-10

サンファミリー本郷202

TEL:03-3816-7971　FAX:03-3816-7977

E-Mail：kyowa@kyowa-kaigai.jp

担当：野口正二郎（東京文京ライオンズクラブ）

ラオスはインドシナ半島にある内陸国。中国、ベトナム、ミャンマー、カンボジア、タイの5カ国と国境を接しており、国土は九州とほぼ同じ約24万平方キロメートル。外務省によると、ラオスの人口は約630万人、1人当たりの国内総生産（GDP）は859ドル（いずれも2008年の推定値）で、国連の基準では世界の最貧国（後発開発途上国）に分類されている。

●首都ビエンチャン

スタディ・ツアー最初の訪問地ビエンチャンはラオスの首都で、タイとの国境線をなすメコン川沿いにある。人口は約20万人、首都圏全体では約70万人に達し、国全体の1割以上の人が暮らす、同国政治、経済の中心地だ。

今回、視察を予定している視力ファーストの眼科クリニックは、そんなビエンチャンのメーンストリート、商店などが並ぶにぎやかな通りの一角にある。このクリニックはラオス保健省ビエンチャン眼科センターの出先機関で、視力ファースト交付金6万1千ドルを受けて2006年8月にオープンした。

保健省が2階建ての中古建物を提供し、視力ファースト交付金はその修繕と設備、基本的な診察機器などの購入に充てられた。

ビエンチャンではまた、愛知

第7回 LCIFスタディ・ツアー 参加者募集

県・名古屋ウエストライオンズクラブが車両2台を寄贈した、郊外の眼科病院も視察することになっている。

●古都ルアンパバーン

一方のルアンパバーンはラオス北部、ビエンチャンから、メコン川を約400キロ上流にさかのぼったカン川との合流点にある。1975年、ラオスに革命が起こり共産主義政権が成立するまでは、旧ランサン王国の王都であった。二つの川が合流する半島部分には、今でも旧王宮や寺院など数多くの歴史的建造物が残り、95年、「ルアンパバーンの町」として世界遺産に登録された。

ここでは、小学校の校舎建設事業を視察する。ラオスの教育制度は小学校5年、中学3年、高等職業訓練校3年、大学5年となっている。このうち大学は国が、高等職業訓練校は県が、中学は郡、小学校は村が校舎を用意する。が、世界最貧国の一つに数えられる同国の中でも、更に貧しい郡部の村が、独自に校舎を用意するのは難しく、この1、2年、LCIF交付金を使って校舎建設を支援する日本のクラブが増えている。今回はこのうち、シドニー国際理事会で承認されたばかりの鹿児島県・川内ライオンズクラブの事業を視察、スタディ・ツアーに合わせて校舎の落成式も予定されている。

第7回LCIFスタディ・ツアー旅程表

日付	旅程
1月15日(土)	(A)福岡空港発10:30（VN963） (A)ハノイ着12:45 (A)ハノイ発16:30（VN825） (A)ビエンチャン着17:55 ※福岡からは日曜日の便が無いため1日早い到着、観光
1月16日(日)	(B)関西空港発10:30（VN945） (C)成田空港発11:00（VN955） (D)中部空港発11:30（VN967） (B)ハノイ着13:30 (C)ハノイ着14:30 (D)ハノイ着14:50 (B·C·D)ハノイ発16:30（VN825） (B·C·D)ビエンチャン着17:55
1月17日(月)	交付事業視察（眼科病院／眼科診療所）
1月18日(火)	市内観光 ビエンチャン発16:30（QV103） ルアンパバーン着17:10
1月19日(水)	交付事業視察（小学校校舎完成式）
1月20日(木)	市内観光 ルアンパバーン発16:40（QV313） ハノイ着17:40
1月21日(金)	市内観光
1月22日(土)	(D)ハノイ発00:05（VN966） (C)ハノイ発00:05（VN954） (B)ハノイ発00:10（VN944） (A)ハノイ発02:00（VN962） (D)中部空港着06:40 (C)成田空港着06:50 (B)成田空港着06:40 (A)福岡空港着08:00

※旅程は一部変更になる場合もあります。

CLUB REPORT クラブ・リポート

●当欄はライオンズ、レオ、ライオネスの活動報告を扱います。投稿要領は7月号56ページ参照

神奈川県・横浜戸塚中央ライオンズクラブ

笑顔満開の「あさがお市」

「いらっしゃあ～い、さあ、どうぞ見ていってくださいね～」

横浜市戸塚区役所の駐車場に設置された特設会場では朝から威勢のよい声が飛び交っていた。売られているのは朝顔の他、トマトやナス、キュウリといった朝採り野菜。声の主はライオンズの面々。

7月17日（土）、横浜戸塚中央ライオンズクラブ（三木孝仁会長／27人）主催の「あさがお市」が開かれた。売り上げ金の一部を戸塚区社会福祉協議会に寄付し、残りをクラブの活動資金に充てるためのチャリティー市だ。今年で9回目を迎えるこのアクティビティは地元では恒例行事。来場者の中にはメンバーと親しくあいさつを交わす人たちも多く、自然と会話も弾む。活動資金の獲得と同時に、クラブと地域住民の貴重な交流の場にもなっている。

売り場に並んだ朝顔は200鉢。苗屋を営むライオンがこの日のために用意した。また、色とりどりの野菜は知り合いの農家に提供してもらっている。朝顔は相場の半値ほどと安く、また野菜は収穫したばかりのものが中心だ。昨年から月1回開かれている区民市と一緒に開催するようにしたこともあり、朝9時の開場から続々と来場者が訪れる。威勢のよい呼び込みのかいあって、

売れ行きは好調。朝顔を5鉢、6鉢とまとめ買いしていく人の姿も数多く見受けられた。

会場がにぎわいを増した11時頃、思わぬお客がやってきた。散歩中の保育園の子どもたちだ。

「園長先生に朝顔を買っていってあげようか」

「はあーい」

先生の声に、子どもたちが元気よく答える。

先生たちが朝顔を選ぶ傍らで、子どもたちは興味津々の様子。最後に朝顔の前で記念写真をパチリ。「ばいば～い」と手を振りながら帰って行った。

アクティビティに華を添えてくれたかわいらしいお客に、三木会長は「ほんとうにかわいらしいお客さんなので、毎年来てほしいですね」と自然と笑みがこぼれる。

大人も子どももライオンたちも、笑顔が絶えないチャリティー市となった。

（取材／安藤英則）

東京ワンハンドレッド ライオンズクラブ

伝統芸能の騎手たちによるチャリティー公演

7月15日、東京の浅草演舞場。艶やかな藤娘の舞に見入る観客の胸には、小児がん支援のシンボルマーク「ゴールドリボン」のピンが光る。ゴールドリボン基金は、財団法人がんの子供を守る会によって小児がん経験者の自立支援や、治療研究への助成などに役立てられている。

ゴールドリボン基金チャリティー企画「伝統芸能の今」の出演者は、歌舞伎の市川亀治郎と、能楽師葛野流太鼓方の亀井広忠、歌舞伎囃子田中流13世家元の田中傳左衛門、歌舞伎囃子方の田中傳次郎の3兄弟が結成した三響會。4人はいずれも昨年発足した東京ワンハンドレッド ライオンズクラブの会員で、ライオン田中傳次郎は初代会長。この公演にはクラブが協力参加している。

昨年は東京での1回公演だったこの企画。今年は首都圏の他、石川県、熊本県など全国10カ所で11公演を行い、収益の一部を寄付する他、募金活動も展開した。最終日のこの日は昼夜2回公演で、開演前のロビーでは市川亀治郎ら出演者が自ら募金箱を手にし、ライオンズ会員と共に協力を呼び掛けた。

舞台では出演者4人の座談会も行われ、小児がんと支援を必要としている子どもたちのこと、そしてライオンズに入会したことが社会貢献への扉を開き、ゴールドリボン基金を知るきっかけになったことなどが語られた。

今回のチャリティー公演でゴールドリボン基金に贈られたのは総額1千万円。垣水孝一がんの子供を守る会理事長に目録を手渡したライオン市川は、「子どもたちの心の痛みを少しでも除いてあげられたらいい。お一人おひとりの心が積み重なってこれだけの額になったことが尊い」と観客に感謝の言葉を述べた。

（取材／河村智子）

栃木県・宇都宮中央ライオンズクラブ

筋ジストロフィー患者をSLの旅に招待

5月23日、栃木県筋ジストロフィー協会の会員とボランティア54人が真岡鉄道SLの旅を楽しんだ。宇都宮中央ライオンズクラブ（稲寿会長／45人）の招待で、今回で35回目を迎えた。

朝早くから栃木福祉プラザに集合した面々。

「おはよう、Aさん。お元気でなによりです。今年はお母さんもご一緒ですか？」

「ちょっとね、このところ調子を落としているみたい、心配だから……」

難病と闘う方たちの心の強さ、いつも元気なあいさつを交わしてくれる彼らの度量の大きさに敬服してしまう。そんな彼らに楽しんでもらいたく、また食事、トイレ、人工呼吸器、痰吸引器の操作等々、四六時中介護をされているご家族が一日だけでも介護から解放されれば、との思いもあって始まった招待旅行だ。

入会したてのメンバーがこの事業に参加すると必ず、「感動しました。来年も参加したい」と言う。

クラブ結成3年目から障害者の人々の詩集を集めた『車椅子の青春』という小冊子を発行し、いろいろな障害者とのかかわりを持ってきた。その中で筋ジストロフィーの方々には毎年クリスマス・プレゼントとして電気毛布を送り、認証10周年の記念事業には、メンバーの経営する那須塩原の温泉旅館に初めての一泊招待旅行を行った。メンバーの車に分乗し、医師ライオンは往診セットを携帯した。その後、24時間人工呼吸器が必要な方も参加出来るよう日帰り旅行に変更し、現在に至っている。

35年の間には多数の参加者の顔ぶれが変わっていった。カラオケがうまかった歌姫、車いすでカワセミ飛来の瞬間を撮っていた元合気道7段の彼、T大に合格するも車いすでは学生生活が不可能と入学を拒否され、彼をサポートする学生ボランティアが多くいた地元のU大学に進学したO君、皆若くしてみまかれてしまった。彼らとの楽しかった思い出は尽きない。

そんな一瞬を一つでも多く残せればと活動を続けている。（筋ジストロフィー委員会副委員長／田中正司）

愛知県・安城南ライオンズクラブ

田んぼアートを空から見よう

安城市では2008年から、地元農家が田んぼをキャンバスに見立て、さまざまな色の苗で絵を描く農作業体験「ふれあい田んぼアート」を開催しており、今年で4回目を迎える。

5月15日に市民の皆さんが植えた田んぼの稲は、6月下旬にはずいぶん育って形を成してきた。そこで安城南ライオンズクラブ（白谷康裕会長／93人）は高所作業車を用意し、地上16メートルからこのアートを見るというアクティビティを企画した。普段は見られない高さからアート全体を鑑賞し、農作業の大切さと苦労を実感すると共に、喜びを感じてもらおうというものだ。

6月26日、市民200人とふれあい田んぼアート2010実行委員会30人、そして当クラブから30人が参加し、空からの田んぼアート見学を開催した。参加者は5～10人ずつが1グループで、各自ヘルメットと安全帯を着用して高所作業車に乗り込み、空の散歩へ繰り出した。

お昼には、本場中国山西省出身の中国人調理師に出張してもらい、刀削麺を振る舞った。

これからも稲の成長過程における色彩の変化を楽しみにしている。市民の皆さんに地元の農作物を消費する地産地消を意識して頂き、地元農業の発展と環境浄化活動につながることが、我々の願いである。

（PR・IT委員会／杉浦弘昌）

岡山旭ライオンズクラブ

スペシャルオリンピックスを支援

スペシャルオリンピックス日本（SON）岡山が2005年1月に設立された。岡山旭ライオンズクラブ（小幡晋一会長／22人）は03年4月SON岡山が設立準備段階にある時から支援を行っている。03年には、SONを一人でも多くの方に知って頂くために細川佳代子SON理事長の講演会と、知的障がいのある人たちの可能性を見つめたドキュメンタリー映画『エイブル』の上映会をアクティビティとして実施した。それから毎年団体賛助会員として寄付、総会への出席を続けてきた。

08年からは中国・四国地区に声掛けをし、SON岡山地区大会公式プログラムとして、水泳競技、ボウリング競技、今年度からは陸上競技も開催されるようになった。昨年はメーン事業の一つとして大会に共催、例年は継続事業の一環としてボランティア参加している。

今年も5月29日に陸上競技、6月13日水泳競技、6月27日ボウリング競技の地区大会が開催され、これらにボランティア参加した。知的発達障がいのある選手たち（アスリートと呼ぶ）に会ううちに顔見知りになり、上達した姿を見るごとにうれしく思う。大会ではスキンシップ、ハイタッチなどを交わし、我々が逆に元気をもらっているようにも感じる。

今後も当クラブは、団体賛助会員、個人賛助会員として資金面の応援、そして岡山地区大会の支援を続けていく。

SON岡山の活動はホームページでも紹介されているのでぜひご覧頂きたい。6月にはオーストリア・ナショナル・ゲームで招待選手たちが活躍している。　（計画PR委員長／岡嶋正和）

佐賀県・鹿島ライオンズクラブ

アフガンの子どもたちへ贈るランドセル

この事業を知ったのは、あるニュース番組の特集だった。神奈川県のとある小学校で6年生が中心となり、不要になったランドセルをアフガニスタンに送るため（ランドセル1個送るのに1800円の負担が必要）、書き損じはがき等を集め、その費用を捻出していた。

これは国際NGO・ジョイセフが主催している「ランドセルは海を越えてキャンペーン」だ。いまだ続く内戦により校舎を破壊され、青天井の下、地面に文字をなぞりながら勉強しているアフガニスタンの子どもたちに、日本の子どもたちが使わなくなったランドセルをプレゼントするというもの。丈夫なランドセルは青空学級では机となり、教育の機会を得る橋渡しとなり、彼らの宝物になる。鹿島ライオンズクラブ（白川秀樹会長／54人）はこれに共鳴し、我が地域でもぜひ実施したいと考えた。

2009年10月から、会員が在住する2市1町の教育長、中学校校長、区長に取り組みの趣旨を説明し、生徒や地域の皆さんにアフガニスタンの現状を紹介し理解を求めた。その結果、156個のランドセルが集まった。

10年3月21日、会員全員でランドセルを1個ずつ丁寧に検品・清掃し、未使用のノートや鉛筆等の文房具類を詰め込み、ダンボール箱に梱包した。輸送費約13万円は当クラブが負担する。3月24日の発送式には市内中学校の生徒会役員3人も参加し、市民やメンバーの見送る中、思い出と希望をいっぱいに詰めたランドセルが旅立っていった。

当クラブはこれからも地域の皆様と共に地域に根差したアクティビティを続けていきたい。（LCIF・ランドセル募金委員長／樋口和幸）

三重県・鈴鹿中央ライオンズクラブ

運動場に芝生の苗植栽

鈴鹿中央ライオンズクラブ（西山英雄会長／26人）では継続事業として26年間、植樹奉仕活動を行っている。今年度は鈴鹿市立国府小学校（樋口照明校長）の運動場に芝生の苗を植える活動に取り組んだ。

同校の運動場は砂ぼこりが立ちやすく、体育の授業などに支障が出ている。そのため以前から運動場を芝生化することが懸案となっていたのである。

実施した5月31日は、クラブ・メンバー18人と参加した6年生児童26人が、まず運動場の一部、600平方メートルに、背丈5センチほどの芝生の苗を一握りずつ手でまいていった。その後、根づきを良くするために、児童2人が専用ローラーを引いて校庭の土に苗を植えこんだ。

「運動場が緑の芝生でいっぱいになったら、思い切ってスライディングしたい」

児童たちの声は明るい。

今回、芝生の苗植栽で指導に当たったのは、運動場の芝生化を研究しているNPO法人・スポーツ施設サイエンス三重研究所（津市）と同研究所の会員会社である㈱日本グリーン（鈴鹿市）。同校を「芝生運動場」のモデル校に指定した。残りの敷地についても引き続き芝生化を進め、8月末には運動場の全体、4200平方メートルが緑の芝生に覆われる予定だ。全面芝生の運動場は市内でも初めてということで、今後3年間にわたって芝生を管理し、運動場と校舎内の温度変化、そして児童とのかかわりなど、幅広い影響調査を行っていく。

これからも児童との共同作業を通じて、体験による「地球にやさしい環境作り」を目指し継続事業として取り組んでいきたい。

（環境保全委員長／大見武夫）

兵庫県・そのだライオンズクラブ

「デフ・フェスティバル2010」開催

イラスト／篠田和夫

そのだライオンズクラブ（栃尾光一会長／33人）は、NPO法人デフピープルを始め諸団体のご協力の下、聴覚障害者と健常者が互いに理解を深めることを目的とした「デフ・フェスティバル2010」を5月29、30日の2日間にわたって開催した。

2009年に台北で行われた第21回夏季デフリンピックにおいて男子サッカー日本代表として活躍された地元尼崎市在住の古隆喜さん、女子バスケットボールの杉谷香さん、長谷川理沙さんの3選手をお招きし、音で判断が出来ないという厳しい条件を克服してスポーツに取り組む思いを語って頂いた。また来場した子どもたちに実技指導もしてくださった。

会場には模擬店が並び、聴導犬のデモンストレーションや4代目桂福団治さんによる手話落語、神戸市立稗田小学校のハンドベルクラブによる手話コーラスなども披露された。

今回の催しのメーンは「24Hリレーフォーハート」。約20人は入れる大きな紫色のタスキを10人ぐらいで運び、24時間ウォーキングリレーでつないでいくというもの。

リレーは29日の正午にスタート。障害者も健常者も一緒になって、1周400メートルのグラウンドを30分ずつ歩く。日没後は外周にキャンドルが輝く中でのウォーキングだ。深夜も常に5人以上がタスキをつなぎ、中には何時間も積極的に歩き続ける人もいた。吹奏楽や和太鼓での激励もあった。結果、1200人を超える参加者が24時間で258周を歩いた。皆、疲れているはずなのに、喜びと達成感で会場内は活気が満ちあふれていた。

デフ・フェスティバルを通じて相互理解を深める良い機会を得られたが、コミュニケーションを図る上で手話通訳者や要約筆記者の存在が不可欠であった。こうした方々のご協力に心から感謝すると共に、その活動をサポートしてゆくことも聴覚障害者への配慮あるまちづくりにつながることを痛感した。

（PR・広報委員長／土田裕史）

鹿児島南ライオンズクラブ

スポーツ少年ソフトボール大会開催

鹿児島南ライオンズクラブ（野村義博会長／31人）はみどりの日の4月25日、第17回鹿児島南ライオンズクラブ旗争奪スポーツ少年ソフトボール大会を開催した。鹿児島市谷山地区ソフトボール少年団連絡協議会主管により地域ソフトボール少年チームの交流を深め、健全育成を目的としている。

当日は南薩摩地区チームを含め38チームが参加、Aチーム6パート、Bチーム2パートで試合開始。各チームは日頃の練習の成果を発揮せねばと、選手は奮闘、親は応援合戦、監督もサインでハッスル！　見学者も子どもたちのプレーに心からの声援を送り、感動をもらっていた。

第6回大会から、参加チーム父兄、各チーム監督、コーチ、応援参加の皆様の協力を頂き、献血活動も行っている。今年も3台の献血車を用意、約300人余りの受け付けで188人から400ミリリットルの血液を採取することが出来た。

今年は地区年次大会の翌日の開催となり、姉妹クラブの沖縄県・浦添ウエスト ライオンズクラブの上原勝会長以下11人のメンバーも参加頂き、献血でも4人が採血されて大会を盛り上げてくださった。

今年の参加者は総勢約千人。テレビや新聞で報道された他、広く地域活動が出来た。大会を無事終えたその夜は、関係者一堂に会しての反省会となった。来期の更なる発展を願い、盛会のうちに感謝感謝で幕を閉じた。

（情報委員長／黒木三洲男）

山口県・宇部新川ライオンズクラブ

献眼啓発DVD『光と愛を』を製作

「ラッキー。今日、私とってもいいことをしたんよ」

我が宇部新川ライオンズクラブ（36人）を通じて献眼登録をした日、家に帰った高校1年生の上田智子さんは、家族にそう告げたという。しかしまさか高校1年生という若さで急逝されるとは。彼女の遺志を遂げさせてあげたいというご家族のご英断で2人の方に角膜が提供された。もう16年前のことになる。

我がクラブでは彼女の善行を語り継ぐと共に、その遺徳を顕彰してきた。そしてこの度5年にわたる構想を経て、メンバーのライオン中村彰臣が代表を務める音楽グループ「満天堂」を後援し、献眼啓発DVD『光と愛を』を完成させた。DVDでは西田輝夫元山口大学医学部眼科学教授が角膜移植やアイバンクの活動について解説されている他、智子さんのエピソードや、彼女が書いた「可能性への挑戦」という一文が紹介されている。彼女が祖母から言われた「自分が幸せになりたかったら、人が幸せになるようにしなさい」という言葉を胸に刻み、世界中の人が幸せであるように第一歩を踏み出したいといった内容である。

DVDは満天堂による楽曲を収めたCDとセットで2千円。当クラブの合唱団もコーラスで参加している。我々はこのDVDにより更に広く献眼登録を呼び掛けていきたい。「光と愛を」は336・D地区のアクティビティ・スローガンである。多くのライオンズによりこのDVDをご利用頂き、献眼登録者が増えること、またこの活動を通してのライオンズ会員の意識の高揚、連帯が強くなり、会員増強につながることを願っている。（会長／清水将之）

神奈川県・秦野丹沢ライオンズクラブ

秦野市中学校バンドフェスティバル

秦野丹沢ライオンズクラブは3月7日、クラブ30周年記念事業のメーン・アクティビティとして、青少年健全育成を目的とした「秦野市中学校バンドフェスティバル」を開催した。秦野市教育委員会、秦野市音楽協会、神奈川及び西湘両吹奏楽連盟等の協力、後援を得た。

フェスティバルの中心である「音楽部門」では、音楽を通して仲間と共に今を生きることの尊さ、すばらしさを実感し、未来へ羽ばたいてもらいたいと、参加校には開催日まで演奏技術を磨いてもらい、我々は準備とPRに励んだ。当日は生徒と担当顧問、そしてクラブ・メンバーによる手作り感のある企画運営となった。ステージドリル・アンサンブル、各校ごとや合同での演奏を行い、一般からは地域を中心に活動している親子アンサンブル、大学のアンサンブル等をゲストに招いた。

「福祉部門」では「がんばれ盲導犬」と題してブースを開設。盲導犬協会にも協力をお願いし募金活動、盲導犬の普及活動を実施した。また、自閉症児者の絵画作品展を行い、支援のお願いと啓発に貢献した。

会員数19人のクラブとしては少し欲張りだったかもしれないが、1300人ものご来場を頂き、未来を担う青少年育成支援と福祉団体への奉仕活動が、PRも含めて実施出来たと思う。

立案から開催まで約半年という短期間の中で、フェスティバル・テーマの決定、行政機関や諸団体との渉外活動、吹奏楽部部員講習会等、慌ただしく日々が経過した。ポスター作成では各校生徒からデザインを公募したが、一つを選定するのは大変難しかった。

今回は奉仕活動としてのイベントの企画運営の難しさ、メンバー全員の協力の必要性を実感した。これを開催出来たことは当クラブの財産であり、今後の奉仕活動にも必ず役立つであろうと確信している。（会長／高田昭雅）

北海道・札幌はまなすライオンズクラブ
チャリティー・ボウリング大会

札幌はまなすライオンズクラブ（細川勉会長／15人）は１９７９年の結成以来毎年、青少年健全育成を掲げ「全国少年ジャンプ大会」を開催してきた。日本を代表する選手の多くがこの大会を通過点として世界に羽ばたいていることはクラブの誇りでもある。

さて昨年7月、我がクラブは一人の新会員を迎えた。彼は日本ボウリング場協会の理事であり、私も還暦を過ぎてボウリングを始め10数年を経て、奥の深いスポーツであることを実感していた。そこでこの機に新しいアクティビティとして、家庭環境に恵まれない子どもたちを対象としたチャリティー・ボウリング大会を開催することにしたのである。

春休み中の3月27日、児童養護施設「札幌南藻園」の小学1年生から高校3年生まで32人の子どもたちと職員7人を招待し、当クラブ・メンバーらボウリング愛好家20人と共に、ゲームを開催した。市内ボウリング場の協力も得ることが出来た。経費は、１口５千円の協賛金をメンバーや知人、友人から募り、集めた14万円を運営費に充てた。また大塚製薬㈱と小西酒造㈱からスポンサーとして景品を提供して頂いた。子どもたち用に用意した文具等の景品は、参加者皆で昼食を囲んだ時に抽選会を行い、プレゼントするなど、楽しいひと時を楽しんだ。

大会終了後、子どもたちに実施したアンケートでは、「とても楽しい一日を過ごすことが出来た」「次回もぜひ参加したい」など好評だった。ゲーム中の彼らのすてきな笑顔を見て、来年以降も継続アクティビティにしたいと考えている。（幹事／村松芳明）

徳島県・藍住ライオンズクラブ
とくしまマラソン2010

藍住ライオンズクラブ（奥村泰明会長／42人）は4月6日、例会前に早朝の清掃活動を実施した。今回は、4月26日に開催される徳島の春の風物詩となったフルマラソン大会「とくしまマラソン２０１０」に先立っての実施。コースとなる吉野川堤防道路の周辺を重点的に、軽トラック1台分のごみや空き缶等を拾い集めた。会員一同はマラソン当日の風景を想像しながら心地良い汗を流した。

さて当日は絶好のマラソン日和。クラブ・メンバーも、雄大な吉野川（四国三郎）や眉山の山並みを眺めながら快調に走るランナーたちを見守り、沿道から盛大な応援を繰り広げた。

この大会には、制限時間7時間以内にゴールしないと失格という厳しい条件がある。にもかかわらず、全国各地からの参加者６３６０人中５９６０人（93％）が完走した。その中には徳島市長もおられ、盛大な拍手を浴びていた。

今回は空前の参加者数となり、お世話をするボランティアも大変な苦労だったが、チームワークも良く、沿道担当、給水担当、救護担当、完走バンザイ接待係などたくさんの縁の下の力持ちと、一般の応援の方々に支えられた大会となった。

中でも印象的だったのが、愛媛県から来られた84歳の方が無事ゴールされたことである。健康づくりのため60歳過ぎからマラソンを始められたとか。「とくしまマラソンは初めてだが、ボランティアの皆様のおかげで気持ちよく走れて感謝の気持ちでいっぱいだ。また来年も来たい」と笑顔のコメントをされていた。その他、多くの方々の喜びの声が届き、我がクラブ会員一同、癒やされた一日だった。

また来年も、目標を達成した人も出来なかった人も、春の阿波路でランナーの数だけのドラマが生まれることを願っている。（第2副会長／賀川直）

大分県・日出ライオンズクラブ

エコキャップ回収活動の輪を広げよう

日出ライオンズクラブ（是久義明会長／41人）は今年1月から新規継続活動として、「エコキャップ回収活動」を実施している。第1例会場、第2例会場、クラブ事務局の3カ所に手製の回収箱を置き、メンバーによる日常的な回収により、1～6月の半期で約20キロの回収実績を上げた。

この自クラブでの回収活動と同時に、我々は日出町内の他組織や団体にも活動の輪を広げることが、より重要でライオンズらしい活動の在り方ではないかと考え、小学校への活動支援を開始した。

2009年12月には町内の藤原小学校が回収活動をしていることを知り、43キロの回収キャップを寄贈し、小学校の分を含め100キロをイオングループの回収ルートに乗せた。

今年は大神小学校がこの活動の開始を希望しているとの情報を得て、6月16日、「回収スケルトン」を寄贈。日出新聞の取材の中、小学校の全体集会前に生徒代表に贈呈した。

是久会長から、キャップは捨てればゴミになるが、分別回収すれば地球環境に優しくかつ人命救助になること、ボランティア活動の良い経験になることを、易しく話してもらった。

後日、大神小学校から「新校舎へも回収スケルトンを置きたい」との要望を受け、6月末に2台目の寄贈のため再訪問した。その際、1台目の設置から1カ月も経っていないのに、既に60～70キロもの回収実績が上がっているのに驚いた。小学生の数の力と、その家族を含めた回収力、また何よりもその波及力の大きさに圧倒される思いだった。

このようにライオンズ自身の活動をベースに活動の輪を広げることによって、より大きな効果と広がりが期待出来、クラブのPRも兼ねたライオンズらしい活動方式になるのではないかと考える。

更に小学校等との交流を、将来のライオンズクエスト導入への布石としたいと思っている。

今後もメンバー全員の協力で息長く、この活動を推進していきたい。

（幹事／阿部勇司）

神奈川県・横浜コスモポリタン ライオンズクラブ

チャリティー・コンサート開催

去る4月17日、ローズホテル横浜において、横浜コスモポリタン ライオンズクラブ（星田信之会長／11人）はチャリティー・コンサート「小栗久美子トリオ～ベトナムを奏でる～」を開催した。

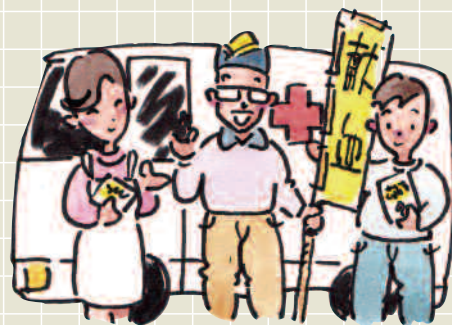
当クラブは結成の1996年以来ずっと、ベトナムに診療所を建設するなど医療援助奉仕を続けている。来年度15周年を迎えるに当たり四つめの診療所建設を予定していた。そんな折、クラブの活動区域にベトナム楽器の演奏家がいらっしゃることが分かった。そこで、ベトナム文化を紹介するチャリティー・コンサートを通じて事業資金の一部を獲得しようということになったのである。

小栗さんは大変珍しい二つのベトナム楽器、マリンバとトルンを披露してくれた。マリンバという楽器は巨大な木琴のようであり、鍵盤部分が竹製で、叩き方によって時には女性的に繊細に、時には男性的に力強い音を発する。一方トルンは、同じく竹製の鍵盤を吊したような流線型の芸術的な形状で、その音色は実に繊細で聴衆の心にしみわたり癒やされるものだった。演奏されたのは、小栗さんのオリジナル曲の他、ベトナムの伝統的な曲や日本の童謡などである。

終演間際には観客からアンコールが求められた。終始会場は一体感に包まれていた。

（地区PR・情報委員／片岡淳一）

大阪天神橋ライオンズクラブ

地元PTAと共に献血活動

天神祭と学問の神様で知られる「大阪天満宮」のおひざ元にある、日本一長いと言われる大阪天神橋商店街。1丁目から7丁目まで南北3キロに延び、最寄り駅が五つある。ただ長いだけでなく、商店街の至る所に歴史があり、今に伝わる名所がある。そしてそこから外れた街中にもまた、いろいろな面白い店や場所がある。

そんな雰囲気ある地域に事務局を構えるのが、我が大阪天神橋ライオンズクラブ（太田明会長／22人）。商店街入り口で年6回の清掃・献血奉仕活動を行っている。

この献血について、地元市民の関心を高め協力者を増やしていくにはどうしたらよいか、クラブでは例会や理事会で何度も議題に取り上げてきた。そして「長く続けていく中で、少しずつで良いから伸びていくことが大切ではないか」と考えていた。

そこで、かねてからアクティビティを通じて交流のある大阪市立堀川小学校と共に奉仕活動することが出来たらと学校側に申し出たところ、快いお返事を頂くことが出来た。同校は国際平和ポスター・コンテストに参加頂いている他、2007年のクラブ結成40周年に「大阪天神橋ライオンズクラブ文庫」を設置して以来、本の寄贈を続けており、またPTAを対象とした人権擁護講演会の後援を請け負うなどしている。

09年11月から、献血活動にPTAの方々に参加頂いている。通行される知人、友人らにも声掛けをしてくださり、地元を良く知る強い味方を得てうれしい限りである。

地道ではあるが、これからも人と人とのつながりを大切にし、地元の方々と共に歩んでいきたいと願っている。

（環境保全・献血奉仕委員長／久徳健三）

愛知県・豊田シニア ライオンズクラブ

カブトムシを育てこども園に贈呈

本年度クラブ結成10周年を迎える豊田シニア ライオンズクラブ（光岡茂夫会長／32人）は、青少年健全育成、とりわけ幼稚園児、小学生児童の情操育成事業に積極的に取り組んでいる。

今や子どもたちに人気のアクティビティとなったカブトムシ贈呈は、2001年から幼虫を採取してサナギを越年させ、3年目にようやく100つがいを市価の半額程での即売会を行うことが出来た。とはいえ、ここからもまだ試行錯誤の連続で、奇形が生まれたり、孵化した雌雄の数が不確実だったり、毎日床替えを行いエサを与えるのだが、数が増えてくると逃げてしまうものがあったり……。さまざまな失敗を経験した結果、5年目に当たる92年度からは、幼稚園に対象をしぼり贈呈することにした。

カブトムシの育成は年間を通じての作業だが、全員で取り組むというよりはどうしても担当者に骨折り頂くようになってしまう。93年度まではライオン柘植猛、以降はライオン簗瀬守兄がその重責を担ってくれた。2人の共通点は住環境に恵まれていること、そして子どもとカブトムシが大好きなことである。

ライオン簗瀬によると、2～3月に畑の堆肥の山からカブトムシの幼虫を掘り出し、採取。家の玄関に置いて面倒を見る。6月下旬から7月頃、だいたい幼虫180匹のうち100匹が成虫になって出てくるという。この頃は心配でたまらないのだそうだ。

今年も7月12日、市内四つのこども園に80匹を寄贈した。この時、子どもたちが去年のカブトムシから2匹の新しいカブトムシを育てたという話を聞いて、ライオン簗瀬は感激していた。

これからも出来るだけ皆で協力してこの事業を続けていきたいと思う。

（幹事／夏目八洲彦）

千葉ライオンズクラブ

薬物乱用防止教室に重点

メンバー高齢化のためか、近頃は金銭アクティビティに片寄る傾向もあるが、不況の影響でそれもままならぬ状況でもある。千葉ライオンズクラブ（林昇志会長／52人）では2009・10年度はライオンズの奉仕の原点でもある労力奉仕に力を入れようと、薬物乱用防止教室を重点アクティビティと位置付け活動した。

今までは学校医でもあるメンバーを通じて年1回程度開催してきたが、09年度は市教育委員会から小・中学校に呼び掛けて頂いた結果、大いに関心が寄せられ、日程を調整し小学校9校、中学校1校で開催することが出来た。

小学校では主に6年生を対象に、中には4、5年生も一緒に、中学では3年生に講義を行い、すべて合わせると1223人の児童・生徒が参加したことになる。

教室では薬物乱用防止の講義と合わせ、身近な問題である「煙草と健康」についても話をしている。更に寸劇は先生が出演。普段とは違う先生を目の当たりにすることで、記憶に強く留めてもらえるものと思う。子どもたちの真剣な眼差しに接し、大変すばらしい意義のあるアクティビティだと改めて実感した。

教室実施後に提出してもらった感想には、「薬物はいけないと普通に思っていたが、どんなふうに危険なのか、勧められたらどう対処すべきなのか教えてもらった」「タバコは毒の缶詰、ゆっくりした自殺。絶対にやらないようにしたい」「家族やお医者さんにもらった薬以外は使ってはいけないということが分かった」など書いてくれ、よく理解してもらえたと思う。

当クラブは再来年の結成50周年までに50校で開催することを目標に、薬物標本、展示パネル、DVD機器等一式そろえ、「ダメ。ゼッタイ。」の啓発普及活動を積極的に進めていきたい。

（前会長／中尾利弘）

大分県・鶴崎臨海ライオンズクラブ

少年野球大会開催

鶴崎臨海ライオンズクラブ（渡邉住夫会長／34人）は「平成22年度鶴崎臨海ライオンズクラブ旗争奪・大分市東部少年野球大会」を3月20日と22日の両日、鶴崎グラウンドにおいて開催した。この大会は青少年健全育成事業として1992年に優勝旗を贈呈して始まり、以後毎年春に開催されている。

今年は8チームが出場した。どのチームも卒業する6年生が外れた新しいチームでの参加だ。

大会関係者、多数のご父兄、それに渡邉会長以下13人のクラブ・メンバーが見守る中、元気の良い入場行進で幕を開けた。石川満大会代表は開会あいさつで、

「今プロ野球で活躍している大分県出身の阪神の安藤投手、横浜の内川選手、東北楽天の鉄平選手を目指してがんばれ」

と選手たちを激励。引き続き渡邉会長があいさつをし、併せて助成金の贈呈を行った。

試合はAパート、Bパートに分かれ、それぞれ4チームでリーグ戦が行われた。グラウンド周囲の桜の花がポッポツとほころび始めている好天の下、子どもたちによる一生懸命な試合が続いた。

優勝戦はA、B各パートで勝率1位だった、鶴崎少年スポーツクラブ野球部対明治少年野球クラブで行われた。13対11の大接戦を制し見事に優勝を決めた。会場からは優勝チームへも、また惜しくも敗れた準優勝チームへも、健闘をたたえる大きな声援が惜しみなく贈られた。皆が感激した大会となった。（第1事業部担当委員／松井平和）

●獅子吼（ししく）
①仏が説法するのを、獅子が吼えて百獣を恐れさせる威力に例えていう語。
②大いに熱弁をふるうこと。（広辞苑）
●投稿要領→7月号56㌻

1枚の写真

皆川　春安（千葉県・流山）

街角に1枚の写真が張ってあった。丸刈りの少年が口をギュッと締めて、前方を睨むように見つめ、背中には幼子、多分弟か妹を背負い、直立不動の姿で立ったまま、何かを訴えるようであった。

この写真は戦争当時のアメリカ兵のカメラによって写されていた原爆直後の姿だった。画面に何かただならぬものを感じたのは、自分だけではないと思う。引きつけられるように近づいてみると、「子どもたちに戦争のない未来を」という写真展だった。

当時、同じ世代だった私にとって、懐かしさもさることながら、異様と思える雰囲気にのみ込まれてしまった。よく見ると、背中の子どもは寝ているというより、死んでいるようである。ハッとして、もう一度確かめてみた。一瞬のうちに両親が死に、そばにいて亡くなった弟を背負い、どうしてよいか思案しているのだろうか。少年と同年代の私にとって、他人事では済まされない思いで目が止まってしまった。食いしばった口元には、悔しさというよりも、これからどう生きていこうか、万感の思いが迫っているのだろう。

当時は敵国と言われたアメリカの兵士がこれらの写真をどういう気持ちで写していたか分からないが、今こうして目の前に現れた時、同じ気持ちが流れていることを感じて仕方がない。60年を経て再会した当時の生活や自分だけがしまっておいた感情が、後から後から湧いてくるのを止めるわけにはいかない。この写真を撮った人も今頃は静かに余生を送っているかもしれないが、あの少年はどういう人生を送ったのか脳裏に浮かんで仕方がない。そして再び戦争が起きないよう、世界中の人たちが輪をつなぎ、平和な世界がいつまでも続くように願っている一人である。

◆

「一枚の写真」
一枚のナガサキでの写真
それは寝ている弟を
背負っている姿
きちんと前を見つめ
直立不動で立っている少年

イラスト／小川和政

獅子吼

少し虚ろな影もない
歯を食いしばっているのか
よく見れば寝ているのではなく
原爆が落ちた直後のこと
多分両親を亡くし
背中の弟はさっき
息を引き取ったばかり
見つめている先は

肉親が消えた瓦礫の中か
あれから60余年の歳月が
今でも鮮明な想い出となって
魂を揺さぶってくる
やがて人々の記憶から
消えそうな一枚の写真
だが閃光のように
再び脳裡の中を走る

孫と例会に参加

永岡 栄子（島根県・浜田マリン）

「お母さん、大凱（孫）を11時30分に幼稚園に迎えに行って頂けませんか」と電話があったのは、例会日の朝でした。頼まれていやと言えぬ性格。「いいよ」と言ってしまいました。さてどうしよう。迷いましたが、例会を欠席するより連れて出席しようと考えました。

幼稚園の迎えは初めてです。どのようにするのか分かりません。若いお母さんたちに教わり園庭で待ちました。孫の手を引いて歩くのも初めて。思ったより早い早い。運動公園を通り抜け、浜田駅前にあるホテル（会場）に着いたのはちょうど12時でした。浜田駅前にある神楽時計から時を知らせる太鼓の音。神楽も始まりました。さあ大変、神楽が大好きな大凱は動きません。困りました。帰る時ゆっくり見る約束で、何とか開会5分前に入ることが出来ました。計画委員さんの計らいで、大凱のいすも用意して頂いていました。

例会は定刻に始まり、順調に進行して食事です。でも大凱は「いらない。ママの弁当がいちばんおいしい」と。母の愛情弁当、可愛くてすてきな弁当なのでしょう。それでも、デザートに付いていた三色のゼリーをパクパク食べていました。が、急に箸を止め、「あれだらしないよ。ずるい」と言い出しました。日本の旗とL字の書いてある旗の高さの違いを説明すると、何とか分かった様子。が、もう一つ、どうしても私の言っていることが違うと言い張ります。「左右に向いているのはライオンとは違う、タイガー（大凱）だ。自分と同じ名前だ」と。いつか分かる時が来るでしょう。

今日の例会では消防署の方に来て頂き、心臓蘇生法。AEDの使い方の勉強です。初めは「人形が睨んでいる。怖い」と近づきませんでしたが、会員さんの動きを見て安心したのか、少しずつ近づき一緒に心臓の辺りを押さえ始めました。

例会も終わり近くなりました。『また会う日まで』を歌う時、会員さんの輪の中に入り手をつなぎ、口を動かしていました。例会も終わり、約束通り駅前に立ち寄って神楽時計を納得するまで見て帰宅。お絵描きをしながら、ママの帰りを待ちました。

母の顔を見るや「今日、心臓マッサージを習ったよ。人が倒れていたらどうしました、どうしましたと聞いて、返事がなかったら大きな声で人を呼んで救急車を呼んでくださいって頼むの。それで鼻をつまんで2回息を吹き込み30回心臓を押すんだよ。AEDは、言う通りにすればいい。子どもは小さいから前と背中に張るの」と、得意

顔で話しました。ママは「ああそうなの。そうするの」と上手に相手になって聞いてやり、最後に「いい所に連れて行ってもらって良かったね」「うん」大人っぽい返事。子どもなりにしっかり聞いているのに感心しました。会員の皆様には迷惑をお掛けしましたが、大凱は大変貴重な経験をさせて頂き本当にありがとうございました。

　そして5月10日はじいちゃんの誕生日。パパの帰りを待って8時過ぎ、家族がそろってやって来ました。じいちゃんは食事を済ませ熟睡です。私が「じいちゃん、じいちゃん」と声を掛けても目が覚めません。パパが冗談に「死んだとちがう?」と小声で言うと、大凱は何を思ったかベッドに上がり、「どうしましたか、どうしましたか」と肩に手を掛け「誰か救急車を呼んでください」。習ったことを早速実行です。その可愛い様と真剣な表情、思わず笑ってしまいました。その笑い声でじいちゃんは目覚めました。

　孫たちはそれぞれに自分の作ったものを祝いに持って来ました。おじいちゃんの似顔絵、元気でねと書かれたお守り袋。千羽鶴の首飾り。最後は大好物のドラ焼き。じいちゃんうれしそうです。83回目の誕生日でした。「おじいちゃんうれしいね。幸せだね」と声を掛けると、小さな声で「うれしい」と反応がありました。

　次の誕生日が来ることを念願しつつ。

ライオンズ・カルチャー・アジア

野口 正二郎（東京文京）

今年5月28、29日、マレーシアのクチンで「ライオンズ・カルチャー・アジア」が開催された。

　前期のエバハルト・ヴィルフス国際会長のテーマの一つ、文化を通して相互理解を深めようとするイベントを、308・A2地区が計画した。1月にLCIFスタディ・ツアーで同地を訪問した時に、エリス・スリヤティ国際理事とDr.ウィリアム・ブーン元地区ガバナーから、「日本からライオンズのメンバーと踊り手、または歌手や演奏家を連れてきてほしい」と依頼された。

　帰国後、何人かに当たったが、日が近いこともあり、なかなか決まらなかった。が、幸いに童謡歌手の西山琴恵さんと、ベテランのギタリスト・中村ヨシミツ氏が、時間を割いてマレーシアに行ってくれることになった。所属の東京文京ライオンズクラブから承認と、国際協調として援助も頂くことが出来た。

　3人でボルネオ島にあるサラワク州クチン空港に下り立つと、ブーン元地区ガバナー夫妻と数人の地元のライオンズが出迎えてくれた。4日間の滞在中、クチン・ノースライオンズクラブの会員が、送迎や観光等々に世話役として付き添ってくれて、とても助かった。

　クチンは、熱帯雨林の緑の多い美しい街である。ネコの町と言われており、街を歩くとネコの像をいくつか見ることが出来る。市庁舎内にネコ博物館もあり、ネコ好きに

はうれしい街である。市内をサラワク川がゆったりと流れ、川岸の散歩道は市民の憩いの場となっている。

　翌日午前に、ライオンズ・ナーシング・ホームを訪問する。ここはクチンの14クラブが設立、運営する高齢者用の施設である。新棟も完成して、1月に訪問した時よりも更に多くの老人を受け入れ出来る態勢になっていた。女性棟のベッドルームの一角で、日本の美しい童謡等を4曲聞いて頂いた。『さくらさくら』『赤とんぼ』『上を向いて歩こう』『月の砂漠』など日本の名曲を西山さんの清らかな歌声と中村さんの魂のギターでお届けすることが出来た。皆さん車いすに座りながら、静かに耳を傾けていた。学校の先生をされていた老婦人が、大変感激して涙を流して喜んでくれた。いろいろな思いが心中を交錯したのであろうか。

　その晩は、エリス・スリヤティ国際理事宅に招待されて、3人は、浴衣を着て豪邸に伺った。アジアのライオンズ、パフォーマーの皆さんと一緒に写真を撮ったり、食事を頂いたり、踊ったりで、楽しい前夜祭となった。

　ライオンズ・カルチャー・アジア・ショーの当日は、午前に会場のプルマンホテルでリハーサルがあった。楽譜台等、まだ用意されていない中、まずまずの予行練習。夕方、本番となる。会場は480人分のいすとテーブルが用意されて、大宴会場となる。日本、中国、フィリピン、インドネシア、シンガポール、タイ、そしてマレーシア各地と、7カ国からの参加となった。主賓はDr.ジョージ・チャン州観光・遺産・産業開発副大臣で、あいさつの中で、サラワク州に多くの外国人が観光で来てほしいと述べられた。マレーシアのライオンズも同じ思いである。あいさつの後は歌あり、踊りあり、演奏ありでにぎやかな晩となる。日本は2番手の登場で、爽やかな歌声と力強いギター演奏を3曲披露して、大変好評であった。この晩も、民族衣装の皆さんと一緒に写真を撮ったり、交流は楽しくにぎやかに行われた。ライオンズクラブの会は、本当に友好的で、すぐに友達になれて、楽しいものである。

　最後の日はブーン元地区ガバナー夫妻から、テニスコート付のすてきなご自宅へお茶に呼ばれ、楽しいひと時を過ごした。日本からのお二人も、このような経験は初めてで、大変楽しかった、またどこかへ連れて行ってほしいと、冗談半分、本気半分で語っておられた。マレーシアン・ホスピタリティーに感謝・感激である。

　ライオンズ・カルチャー・アジアは、初めての試みであり、地元の努力のかいあって成功裏に終わることが出来た。その一助となったことは、私の喜びでもある。

　奉仕をしながらの国際交流は、ライオンズの真骨頂である。

薬と健康の講話魔術師ライオン金野亭

村上　富夫（岩手県・陸前高田）

　学校薬剤師として40年以上にわたり青少年の健全育成、特に薬物乱用防止のために尽くし、その功績が認められて平成20年度には文部科学大臣表彰を受賞。更に平成22年度春の叙勲では瑞宝双光章を受章された、我々ライオンズクラブの同志ライオン金野亭を紹介させて頂きます。

　彼は昭和10年、岩手県陸前高田市生まれ。東北薬科大学を卒業後、明治29年開業の老舗金清薬局の3代目として家業を継承し、昭和60年、陸前高田ライオンズクラブに入会しています。以来、現在も奉仕活動において

は中心的存在として活躍しておられますが、今回の受章は我々ライオンズの誇りであり、本人もさることながら同志として大変うれしく思う次第であります。薬剤師の彼を一言で言うと「薬と健康の講話魔術師」です。

1983年からライオンズクラブ国際協会の主要奉仕活動として取り上げられてきた「薬物乱用防止」については、特に積極的に県内の中高生及びPTAを対象に毎年3回以上の講演会を行っています。その参加者は現在まで、実に数万人とも言われています。

1998年7月には、332-B地区のガバナーに就任。この時、青少年健全育成、特に「悪魔の誘い、薬物乱用」の防止を充実させなければ、日本の将来が危ないとの危機感から、更にこの活動をパワーアップし、332-B地区内全クラブに薬物乱用防止を訴えて歩いたのです。その時、私は入会3年目でしたが、彼の還暦を過ぎてなおの若々しさと仕事への取り組み方、そしてライオンズへの強い情熱に、誰もが魅入られました。

昨年度の薬物乱用防止講演会は県内8会場で行われ、約1600人の中高校生やPTAの皆さんが受講されました。薬剤師の立場で実際に薬物中毒者の起こした恐ろしい事件や、その怖さを十分認識させるためのビデオ上映を交えながら講演し、時には厳しく、時には楽しく、またある時は優しく微笑みながらと、目線を高く、低く変化させながら話している彼の姿に、参加者は皆、魔法にかけられたように話に聞き入ってしまうのです。私も何度となくその場面に遭遇しております。

講演会は、いつも大好評で、更に薬物に対する認識を高めて頂くために、今後もこの活動を続けていく決意を持っています。

昨年には332複合地区では第1号となる「薬物乱用防止教育講師」ゴールド認定の資格を取得されております。有効期限は5年間で、満期の時には傘寿（80歳）を迎えられますが、更なる活躍を期待するところであります。

本人曰く「薬は人の命を守る大切なもの、必要な時に必要な量を使用することが定められているのです。この掟を破って必要でない時に、必要以上に多くの量を使用することが薬物乱用なのです。よく効く薬も使い方によっては身体に害を与えてしまいます。このことを常に地域住民の皆さんに教えながら、安心安全な良い薬を提供していくのが私の務めなのです」とのこと。

どうか末永く、がんばって頂きたいと思います。

Close up

U50

心も体も成長させてくれたライオンズ
恩返しは青少年アクティビティで

■川野浩史

かわの・ひろし　1960（昭和35）年11月30日大阪府住吉区生まれ。1998大阪住之江ライオンズクラブ入会。2007-08年度クラブ会長。09-10年度335-B地区青少年委員長、335複合地区YCE委員。印刷企画工房㈱オフィス・カワノ代表取締役。49歳。

【入会のきっかけ】 地元のおっちゃん（故椋本善之元地区ガバナーと故山際秀夫元キャビネット幹事）の勧めと、自営業を始めたてでもあったので、新しい未来が開けるような気がして入会させてもらいました。

【入会してみて】 元地区ガバナー（当時はデュピティ・ガバナー）の紹介でもあったので、クラブの皆さんが可愛がってくださり、スムーズに溶け込めました。

【ライオンズで得たもの】 第一はYCE事業にかかわって、知らない国のユースと話が通じてハグしたこと。姉妹提携の台湾永和獅子会との毎年の交流で、台湾語が通じて歓待してくれたこと。謝謝！　地元の大和川を再生するプロジェクトに参画したこと（現在、大和川中学同窓会会長でもあります）。ゴルフの回数が増え、人並みに上達し、他クラブのコンペで優勝したこと。それに、ホテルでのディナーが多く酒量も増え、高カロリーのため貫禄がついたこともですね（笑）。

【今後の抱負】 クラブでは幹事を2年続けて経験したり（会員の皆さんからは留年とからかわれます）、また会長も務めさせて頂き、更には地区でもYCEの委員などを歴任させて頂いて、多くの経験を積むことが出来ました。またインターネットのソーシャル・ネットワーキング・サービス（SNS）で、全国津々浦々の会員と交流しており、非常に有意義で楽しい時間を持てています。しかし、足元を見据えてみますと、自クラブはもとより、ブラザー・クラブの弱体化が見え、運営に支障を来しています。クラブ合併を見据えたゾーン内での合同アクティビティの実施や、同好会活動の充実を図って、クラブ活性化に努めたいと考えています。

他方で、YCEの問題があります。本末転倒だと思うのですが、会員の減少と高齢化を理由に受け入れを拒否をするクラブも出て来ています。335・B地区が行ってきているユース・キャンプは日本唯一のもので歴史もありますが、今後の運営が危ぶまれています。簡単に解決出来る問題ではありませんが、青少年育成の立場を放棄することなく、その推進に取り組んでいきたいと思います。

【田中貞夫会長から】 国際大会の会場にすっくと立つ姿を見て、未来の国際会長の写真かと思いました。大阪住之江ライオンズクラブにも秀逸な人物がおります。誰あろうライオン川野浩史であります。

写真・構成／鈴木秀晃

シドニー国際大会の本会議会場で

おすすめの
ippin

東京都中央区
志ほせ饅頭

ライオン誌の事務所から歩いて10分程の所に、創業660余年という老舗和菓子屋・塩瀬総本家がある。塩瀬によると、「初代林浄因は1349年、中国から来日して奈良に住み、日本で初めて小豆あん入りの饅頭を作った」という。菓子としての日本の饅頭の元祖は、この塩瀬なのだ。

その後、林家の子孫は京都に移り、応仁の乱では戦禍を逃れ三河の塩瀬村へ避難。ここで「塩瀬」に改姓。乱の後、再び京に戻ってからは大繁盛し、足利義政から「日本第一番饅頭所」の看板を受けた。以後も明智光秀、豊臣秀吉、徳川家康らに愛好され、江戸開府と共に江戸に移転した。

お勧めの一品は、江戸時代から名物として有名な「志ほせ饅頭」。伝来の食感にこだわり、国内産のヤマトイモをすり下ろし、上新粉と砂糖を加えて練った皮で、これまた吟味した北海道産の小豆あんを包んでいる。かなり小ぶりだが、しっかりとした食べごたえのある饅頭だ。

●「塩瀬総本家」東京都中央区明石町7-14

埼玉県飯能市

江戸〜東京の街を作った国産良材「西川材」に学ぶこと

■文／砂山幹博　写真／田中勝明

飯能市内の名栗湖畔にあるカヌー工房。カヌーの材料はすべて西川材の間伐材だ

1

江戸時代から重宝される都から最も近い林業地

埼玉県の南西部、荒川支流の入間川など数本の川が交わる一帯を西川地域と呼ぶ。この辺りは、古くから良質なヒノキやスギを育む林業地である。広く知られるようになるのは徳川5代将軍の頃。飯能周辺から切り出した木材で筏を組み江戸へ運んだため「江戸の西の方の川から来る木材」ということで、こうしたヒノキやスギは「西川材」と呼ばれるようになった。「火事と喧嘩は江戸の華」と言われるほど火事の多かった江戸の都は、常にたくさんの復興用材を必要とした。そんな一大マーケットへ、河川を利用して大量の木材を供給することが出来たのだ。

最初は天然木を切り出していたが、じきに本格的な植林が始まった。山師による丁寧な育林作業のおかげもあり、真っすぐに伸びた良木を切り出すことが出来た。江戸後期までに飯能の林業は大いに栄え、貨幣経済が発達。当時の武蔵国内において飯能は、小京都と呼ばれた川越に次ぐ大きな街となった。

「筏による木材の運搬は大正年間まで続きました。その後は鉄道が主流になります。今では影も形もありませんが、昭和40年頃までは現在の飯能駅周辺に材木問屋が建ち並んでいました」

飯能で製材所を営むライオン本橋武久は木材で繁栄した街の歴史をこう説明する。昭和40年と言えば、国内で住宅建築ラッシュが始まった頃。住宅を造るには国産材だけでは間に合わないということで、北米材や南洋材（ラワン材）など圧倒的な低価格と品質を併せ持った輸入材が本格的に入って来た。

「それでも西川材は、節が少なく年輪が詰まった質の高さから、柱や内装用に使われました。昔の家屋の通し柱は20尺（6メートル）のものが多かったので、その高さになるまでに枝打ちを済ませ、節を出にくくしておくという山師の仕事が西川材の品質を保っていました」

と話すのは、西川地域の森林資源に詳しい協同組合フォレスト西川の大河原章吉理事長。ところが今の住宅は、柱や筋かいなどが壁面の外に現れることがないように覆い隠す大壁構造が主流。柱に節があろうがなかろうが関係がない。結果、安価な材料が台頭し、西川材の価格も大きく下がった。

「漢字の『木』の字を囲うと『困』という字になります。人目に触れなくなった木も、その木を扱う我々も困っているんですよ」

と大河原さんは冗談めかして胸の内を明かしてくれた。

環境のことを考えれば、もっと木を切るべきだ

大河原さんの案内で、西川材を切り出す森に入った。

「飯能を中心とした西川地域だけで2万ヘクタールの森林面積があります。埼玉県全体では約12万ヘクタール。首都圏の埼玉県にこれほど森があることは意外に知られていません。ましてや全国的に有名な良材が取れるなんて」

と話す目の先には、すらりと真っすぐ空へ伸びた針葉樹の森が広がっていた。

太さのそろった樹木に混じり、ところどころに神々しささえ感じさせる巨木が確認出来る。「立て木」と呼ばれるこうした巨木は、西川林業の特徴の一つだ。ある区画を伐採する時に1ヘクタール当たり10〜15本ほど木を残し、100〜200年という長期にわたって保存しておくというもの。飢饉などがあった際にお金になる木を残すという、生き抜くための知恵である。

意外に思うかもしれないが、国内の人工林は増加の傾向にある。現在、国内には1千万ヘクタールの人工林があるが、そのうちの45%がすぐに建築用材として使えるほどに成長しているのだ。

❶天保年間に植えられた杉林は、どの木も下枝が払われていた。森に人の手が行き届いている証拠だ
❷丸太を製材機に通すと、節の少ない西川材らしい木目が現れた（撮影協力：㈱田中製材所・本橋武久）
❸柔らかな肌触りのヒノキやスギは、子ども用家具を作るのに適している（撮影協力：フォレスト西川）
❹洗練されながらも温かみのあるスギを使ったオーダーキッチン（撮影協力：㈱サカモト・坂本勉）

今の少子高齢化などを考慮すると、うまく循環させて使えば国産材だけで住宅用建材を十分にカバー出来るだけの量があるという。

「木を切ることは環境に良くないと言う人がいますが、それは間違い。木が最もCO_2を固定化するのは30〜40年経った頃と言われています。樹齢が進むほど固定化が遅くなるため、ある程度育った木は伐採した方が森のためには良いのです」（大河原さん）

適度な間伐も必要だ。木が間引かれることで森の地面に日光が届けば、そこに低灌木が生える。こうした木がし

っかり地面に根を張れば森の保水率はぐんと高くなる。また、間伐された木にも、紙の原料や木工製品などさまざまな用途があったが、最近は少々様子が異なってきた。木の価格が安すぎるため、手間を掛けて間伐材を使おうにも採算が合わない。切り出す山師も少なくなっており、今では間伐材をそのまま山に放置することが多くなった。木が使われないために、国内の森林は荒廃するという残念な結果になっている。

間伐材利用の救世主
「カヌービルド」が森を救う

　飯能駅からバスに揺られ1時間。入間川の支流に水をたたえる人造湖・名栗湖畔の工房で、手作りカヌーの製作指導を行っているのがNPO法人名栗カヌー工房。カヌーの材料は木。しかも利用するのはすべて西川材の間伐材だ。工房の中を覗いてみると、長さ4メートル、厚さ3ミリと細長くカットされた間伐材を木型に合わせて何枚も貼り合わせた、作りかけのカヌーがいくつも並んでいた。

「直径30センチほどの間伐材1本で、ちょうど4メートルのカナディアンカヌーを1艇作ることが出来ます」

　とは、代表の山田直行さん。当初は無節の木を使っていたが、7年前にNPOになってからは間伐材を使うようになった。間伐材でも状態の良いものは市場に出るが、割れていたり節の多いものはほとんど利用価値がない。ところが、こうしたものでもカヌー用としてならば立派に部材となる。通常、市場価格で40万円ほどする木製カヌー

一見難しそうだが、根気さえあれば誰でも作ることが出来る

時間をかけて作ったカヌーに乗って、のんびり湖上の人になる。なんとも贅沢なひととき

が、こちらの工房ではキット代と工房使用料を合わせても半額程度で作ることが出来る。これほど安く上げられるのは、捨てられる運命だった間伐材を使っているからだ。

毎日作業をすれば約30日で完成させることが可能だが、ほとんどの人は1年以上かける。木を貼り合わせた後、ヤスリで磨き上げ、表面をFRP樹脂でしっかりコーティングするので木製とはいえ水漏れの心配はない。たっぷり時間を掛けてコツコツ作り上げた我が艇を、目の前の名栗湖に浮かべる瞬間は何物にも代え難い喜びであることは容易に想像が付く。

間伐材を使ったカヌー工房の試みは、林業全体からすると小さなものかもしれない。しかし、需要を生み出すには、まず関心を持ってもらうことが大切だ。

県内の学校や幼稚園では、子どもの情緒によい影響を与えるという理由で、リニューアル時に西川材を内装に使う動きが活発化している。地元の木材を肌で感じる機会を増やすこと。それが国産良材復権への足掛かりになることは間違いない。

郷土自慢・クラブ自慢

飯能ライオンズクラブの郷土自慢は、団子汁の「すいーとん」。「すいとんじゃないの?」と突っ込まれそうだが、今年5月にさいたま市で行われた「埼玉B級ご当地グルメ王決定戦」で初出場にもかかわらず3位に輝いた、飯能が誇る新名物だ。もともと飯能周辺は、すいとんや団子汁、うどんといった小麦料理をよく食べていた地域。地元の食材を生かした新しい食べ物の開発を進めていた飯能商工会議所が、伝統食すいとんに目を付け現代風にアレンジした。地元でとれた旬の野菜がたっぷり入った汁の真ん中には大きな団子が一つ。中には、季節や店によって異なるが、鴨肉やエビなど5品以上の具が練り込まれている。現在、市内5店舗で食べることが出来るので、立ち寄った際は食べ比べてみるのも面白い。

▼飯能ライオンズクラブ（杉山久会長／30人）＝1972年2月11日結成／スポンサー：所沢ライオンズクラブ

読者プレゼント

■西川材の「折り樹」を5人に

「ふるさと探訪」(51ページ) で紹介した埼玉県飯能市の特産、西川材で作られた「折り樹」を5人の読者にプレゼントします。㈱サカモト(坂本勉代表取締役／飯能ライオンズクラブ)の木の折りがみは、天然木を薄さ0・2ミリにスライスしたもの。紙に比べると若干の抵抗はありますが、写真の通り鶴も折ることが出来ます。大(145×145ミリ)、小(100×100ミリ)各5枚入りをセットにしてプレゼント。

応募要領：はがきに「折り樹」と明記し、住所、氏名、電話番号、クラブ名をご記入の上、ライオン誌プレゼント係あてにご応募ください。本誌ウェブマガジン(www.thelion-mag.jp/modules/inquirysp/index.php?op=0)からも応募出来ます。本誌へのご意見、ご感想もお書き添えください。締切は9月末日。応募多数の場合は抽選。当選のお知らせはプレゼントの発送をもって代えさせて頂きます。

次号予告

THEME
青少年アクティビティ

夏休みを迎えた子どもたちに体験の機会を提供しようと、各地のライオンズがさまざまなアクティビティを企画している。その中から、島根県・鹿島島根ライオンズクラブの「川から海へ大航海in鹿島」、熊本県・天草本渡、菊池両クラブの青少年交流など四つの活動を取材する。

Pick up **クラブ支部**

エクステンションが困難な地域にも奉仕の輪を広げようとスタートしたクラブ支部プログラム。国内の50を超えるクラブ支部の現状を報告すると共に、このプログラムを発展的に活用している事例も紹介。

ふるさと探訪 **岩手県盛岡市**

みちのくの小京都・盛岡を訪ね、「わんこそば」「盛岡冷めん」「じゃじゃめん」の三大麺を味わう。

伝言板

●ライオン誌サポーター募集

ライオン誌日本語版委員会は、本誌のより良い誌面作りにご協力頂ける「ライオン誌サポーター」を募集します。本誌ではこれまで読者モニターにご協力頂いてきましたが、今回募集するサポーターには、本誌記事への意見、感想を寄せるモニター役に加えて、地域からの情報発信をお願いする他、必要に応じて記事編集や取材に協力して頂く場合もあります。以下の要領でご応募ください。

応募条件：ライオンズクラブ会員。Eメールの送受信、ウェブサイト閲覧が可能な方

期間：2010年9月～11年8月

応募方法：氏名、クラブ名、Eメール・アドレス、ライオン誌に期待すること(30字以内)を明記。締切は9月17日(金)

応募送信先：info@thelion.jp

●訂正とお詫び

本誌8月号において以下の誤りがありました。訂正しお詫び致します。25ページのTHEMEIシドニー国際大会：「2010年度国際コンテスト」交換ピン／クラブ部門佳作は、正しくは高山ライオンズクラブでした。54ページの「会議録」で、複合地区YE委員長連絡会議は正しくは第6回でした。

また58ページ「日本ライオンズクラブ分布図」は330・C地区の集計設定の関係で新クラブが含まれていませんでした。これに伴い6月末の集計は以下の通りとなります。

6月末集計変更個所

330-C地区：102クラブ／2,646人(男性2,352人、女性294人)／会員数増減17人

330複合地区：480クラブ／12,856人(11,326人、1,530人)／-408人

総計：3,288クラブ／105,584人(94,997人、10,587人)／-2,880人

ライオン誌事務所来訪者芳名録

7・8 兵庫県神戸みなと 松嶋 豊

7・26 東京ワンハンドレッド 伊賀 保夫

Official publication of Lions Clubs International

Published by authority of the Board of Directors in 21 languages – English, Spanish, Japanese, French, Swedish, Italian, German, Finnish, Korean, Portuguese, Dutch, Danish, Chinese, Norwegian, Icelandic, Turkish, Greek, Hindi, Polish, Indnesian and Thai.

EXECUTIVE OFFICERS
President Sid L. Scruggs III, 698 Azalea Drive, Vass, North Carolina, 28394, USA; Immediate Past President Eberhard J. Wirfs, Am Munsterer Wald 11, 65779 Kelkheim, Germany; First Vice President Dr. Wing-Kun Tam, Unit 1901-2, 19/F, Far East Finance Centre, 16 Harcourt Road, Hong Kong, China; Second Vice President Wayne A. Madden, PO Box 208, Auburn, Indiana 46706, USA.

DORECTPRS
Second year directors
Luis Dominguez, Mijas Pueblo, Spain; Gary B. D'Orazio, Idaho, United States; Yasumasa Furo, Dazaifu, Japan; K. P. A. Haroon, Cochin, India; Carlos A. Ibañez, Panama City, Panama; Ronald S. Johnson, Maine, United States; Byeong-Deok Kim, Seoul, Republic of Korea; Horst P. Kirchgatterer, Wels/Thalheim, Austria; Hamed Olugbenga Babajide Lawal, Ikorodu, Nigeria; Daniel A. O'Reilly, Illinois, United States; Richard Sawyer, Arizona, United States; Anne K. Smarsh, Kansas, United States; Jerry Smith, Ohio, United States; Michael S. So, Makati, Phillippines; Haynes H. Townsend, Georgia, United States; Joseph Young, Ontario, Canada.

First year directors
Yamandu P. Acosta, Alabama, United States; Douglas X. Alexander, New York, United States; Dr. Gary A. Anderson, Michigan, United States; Narendra Bhandari, Pune, India; Janez Bohorič, Kranj, Slovenia; James Cavallaro, Pennsylvania, United States; Ta-Lung Chiang, Taichung, MD 300 Taiwan; Per K. Christensen, Aalborg, Denmark; Edisson Karnopp, Santa Cruz do Sul, Brazil; Sang-Do Lee, Daejeon, Korea; Sonja Pulley, Oregon, United States; Krishna Reddy, Bangalore, India; Robert G. Smith, California, United States; Eugene M. Spiess, South Carolina, United States; Eddy Widjanarko, Surabaya, Indonesia; Seiki Yamaura, Tokyo, Japan; Gudrun Yngvadottir, Gardabaer, Iceland.

Lions Clubs International Headquarters
300 W 22ND STREET OAK BROOK IL 60523-8842 USA
TEL.(630)571-5466 FAX.(630)571-8890
Web site: www.lionsclubs.org

ライオン誌日本語版委員会
国際理事　不老安正
国際理事　山浦晟暉
委 員 長　秋山詔樹（330複合地区）
編 集 長　小田邦雄（336複合地区）
委　　員　後藤　忍（331複合地区）
委　　員　種市一二（332複合地区）
委　　員　林　静誠（333複合地区）
委　　員　砂田繁雄（334複合地区）
委　　員　竹本實生（335複合地区）
委　　員　澁田繁晴（337複合地区）

ライオン誌日本語版事務所
〒104-0045 東京都中央区築地2-2-1 築地細田ビル7階
TEL.(03)3542-9571（代）　FAX.(03)3546-2630
E-mail. edit@thelion.jp
Website:www.thelion-mag.jp

編集室

ライオン誌例会に期待

ライオン誌
日本語版委員
◉
砂田繁雄
（長野県・大町）

昨年度は大島康男委員長、瀧澤嘉門編集長の方針の下に、ライオン誌日本語版委員としてその職を与えられ、1年を終えることが出来ました。委員会では一昨年度から、かねてより懸案でありました「読者モニター制度」を設け、昨年度は3回の読者モニター懇談会を開催致しました。第1回はライオン誌日本語版事務所において、5人の読者モニターの方々にお集まり頂き、第2回、3回についてはウェブ・ミーティング方式によって行われました。

多くの生のご意見を聞くことが出来たこの企画は画期的なことであり、今後の『ライオン』誌編集に大いに役立つものでありました。こうした取り組みが、より多くの会員の皆さんに『ライオン』誌を読んで頂くための起爆剤になればと考えています。

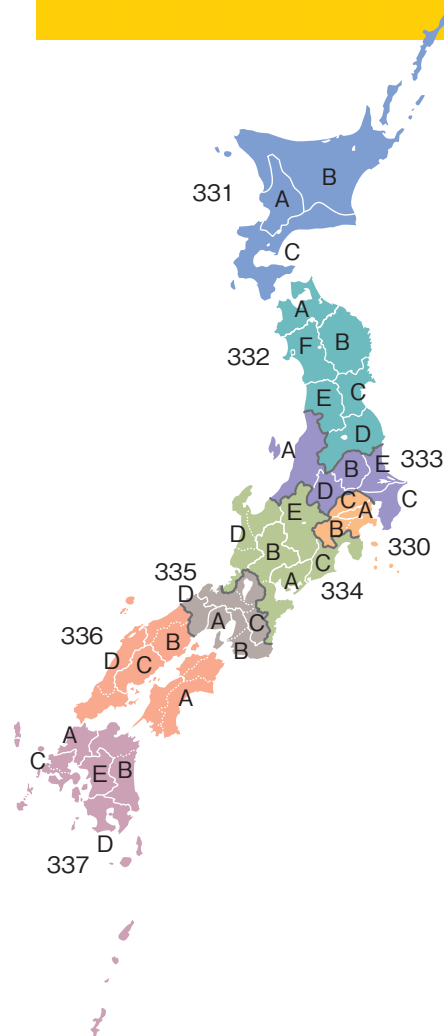
誌面の関係上、すべてご紹介出来ないのは残念ですが、読者モニターのご意見の一つに「ライオン誌例会を推進したら」とのご意見がありました。そこで早速、私が所属する334‐E地区（長野県）の丸山正芳ガバナーにお話ししたところ、『ライオン』誌をクラブ例会で取り上げるとのガバナー方針を打ち出し、実行して頂けることになりました。特に8月号には新年度の国際会長テーマが掲載されているので、会員全員が国際会長の方針を理解するためにも必ず実行し、例会報告をPR委員会に提出することになっています。また、『ライオン』誌にはクラブの奉仕活動の参考になる貴重な記事が載っているので、活用してほしいとのコメントも出されています。地区を挙げてのこうした取り組みは、日本で初めての試みであり、他の地区においても実行して頂ければと思っています。

さて、前回私が担当した今年1月号の本欄は「日本から国際会長を」との表題でしたが、334複合地区から山田實鉱元国際理事が立候補することになりました。2013年には、何としても日本から国際第2副会長を送り出そうではありませんか。

日本のライオンズ

2010.7.31　eMMR ServannA報告による

地区	都道府県	クラブ数	会員数	男性会員	女性会員	会員数増減
330-A	東京	198	5,077	4,423	654	-57
330-B	神奈川·山梨·東京	180	5,114	4,567	547	38
330-C	埼玉	101	2,638	2,329	309	-8
330	計	479	12,829	11,319	1,510	-27
331-A	北海道（道央）	76	2,587	2,416	171	2
331-B	北海道（道北·道東）	91	2,556	2,451	105	15
331-C	北海道（道南）	56	1,839	1,663	176	21
331	計	223	6,982	6,530	452	38
332-A	青森	66	1,760	1,616	144	1
332-B	岩手	54	2,163	1,558	605	26
332-C	宮城	77	1,425	1,317	108	1
332-D	福島	78	2,047	1,859	188	32
332-E	山形	58	1,849	1,667	182	2
332-F	秋田	51	1,311	1,101	210	-7
332	計	384	10,555	9,118	1,437	55
333-A	新潟	78	2,835	2,628	207	28
333-B	栃木	58	1,615	1,192	423	26
333-C	千葉	135	3,496	2,953	543	-15
333-D	群馬	53	2,063	1,747	316	7
333-E	茨城	80	2,895	2,605	290	9
333	計	404	12,904	11,125	1,779	55
334-A	愛知	120	5,406	4,903	503	70
334-B	岐阜·三重	83	3,701	3,408	293	11
334-C	静岡	84	3,219	3,105	114	20
334-D	富山·石川·福井	98	4,007	3,772	235	33
334-E	長野	53	2,081	1,908	173	18
334	計	438	18,414	17,096	1,318	152
335-A	兵庫（東）	101	2,594	2,252	342	24
335-B	大阪·和歌山	195	5,968	5,317	651	70
335-C	滋賀·京都·奈良	121	4,062	3,762	300	38
335-D	兵庫（西）	68	2,104	1,890	214	0
335	計	485	14,728	13,221	1,507	132
336-A	徳島·高知·香川·愛媛	152	5,759	5,132	627	17
336-B	鳥取·岡山	96	3,179	2,900	279	21
336-C	広島	102	3,603	3,409	194	16
336-D	島根·山口	102	3,273	3,057	216	15
336	計	452	15,814	14,498	1,316	69
337-A	福岡·長崎	117	4,523	4,026	497	54
337-B	大分·宮崎	77	2,344	2,200	144	24
337-C	佐賀·長崎	84	2,997	2,600	397	20
337-D	鹿児島·沖縄	81	2,482	2,279	203	25
337-E	熊本	56	1,599	1,458	141	-10
337	計	415	13,945	12,563	1,382	113
総計		3,280	106,171	95,470	10,701	587
世界のライオンズの		7.1%	8.0%			

日本ライオンズクラブ分布図

世界のライオンズ

2010.7.31　国際協会集計

ライオンズ国または領域	206
世界のクラブ数	46,139
世界の会員数	1,335,161
期首からの増減	-3,528

国	クラブ数	会員数	期首からの増減
アメリカ	12,689	367,000	-2,038
インド	5,882	193,292	-1,747
韓国	2,060	84,039	754

ライオン誌9月号
昭和33年12月19日付第三種郵便物認可 定価180円 送料実費76円
2010年(平成22年)8月20日発行 毎月1回20日発行 第53巻第3号
発行所 ライオンズクラブ国際協会ライオン誌日本語版事務所 〒104-0045東京都中央区築地2-2-1 築地細田ビル7階 Tel 03-3542-9571
印刷所 共同印刷株式会社

世界中の子どもたちの笑顔が見たい！

300 W 22ND STREET, OAK BROOK, IL 60523-8842, USA
Phone: 630-571-5466　Fax: 630-571-5735
E-mail: lcif@lionsclubs.org
http://www.lionsclubs.org/JA/content/lions_lcif.shtml